

## 渋谷ハロウィーンを振り返る—その変遷と時流—

佐々木 隆

### プロローグ

通称「渋谷ハロウィーン」は2018年の渋谷センター街でのトラック横転事件を境に、主催者なしのハロウィーンをどのようにコントロールするのか、アフターコロナという中、2022年10月29日深夜、ソウルの梨泰院地区で159人が亡くなるという大惨事が起き、2023年の渋谷ハロウィーンについては異様なまでに関心が高まった。感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類へ変わった最初のハロウィーンを迎えた2023年の渋谷ハロウィーンについてまとめておきたい。

### 1 日本のハロウィーン概略史

日本のハロウィーンを受容&変容について筆者は大別すると11の内容に分けることができると分類（佐々木 b 354-357）したが、さらにその内容を精査すると以下の通りとなる。

- 1 明治時代に欧米理解のために英語を理解するための一助として発行された英語辞典類における Halloween が言葉として紹介。
- 2 欧米に留学や海外滞在した者が日本にハロウィーンを紹介。
- 3 欧米の文化や宗教、民俗などを取り上げた専門書による紹介。
- 4 教育の影響。英語科や社会科の授業で取り上げる。幼稚園や保育所等での行事としての実施。
- 5 日本にいる外国人によりイベントとしてハロウィーンが開催。
- 6 ビジネスとしてハロウィーンが利用。マスコミが取り上げる。
- 7 メディア、エンターテインメントの影響。
- 8 テーマパーク。
- 9 地域活性化として開催された地域型のハロウィーン・イベント。
- 10 第6や第7に属さずに何となく広まり、その広がりが異常なまでに高まった通称「渋谷ハロウィーン」。→ 主催者なしで大勢あつまることが特徴。
- 11 家族や友人でパーティ形式で行うもの。さらに地味ハロウィンという小規模で行おうとするハロウィーンパーティ。

上記6については断片としてカレンダーの10月31日にハロウィーンが記載されたり、ハロウィーンのディスプレイが店頭に並び、ハロウィーン用の菓子類が店頭に並ぶことも今

や当たり前の光景となっている。

以下はいわゆる学術的な受容史というよりは一般的にハロウィーンが知られるようになったことを重視するため、ビジネス等の動きを中心に紹介しておきたい。テーマパーク等で実施される動きも大きな影響があったと考えられる。。

- 1976年 モロゾフ、「ハロウィーンキャンディフェア」開始
- 1979年 8月 ジョン・カーペンター監督『ハロウィン』の日本公開  
※ホラー映画
- 1981年 5月 ジョン・カーペンター監督『ハロウィン』、TV放映
- 1981年 10月 全国菓子協会、ハロウィンキャンペーン開始
- 1982年 12月 スティーヴン・スピルバーグ監督『E.T.』の日本公開。  
※ハロウィーンの日宇宙人が地球へ、子供との交流
- 1982年 5月 リック・ローゼンタール監督『ハロウィンII』の日本公開  
※ホラー映画
- 1983年 4月 東京ディズニーランド開園  
※アトラクション「ホーンテッドマンション」オープン
- 1983年 10月 原宿キディランドのハロウィーンパレード
- 1985年 12月 少女向けのホラー漫画月刊誌『ハロウィン』（朝日ソノラマ社）創刊
- 1989年 10月 モロゾフ、JR 新宿～千葉間で「ハロウィーンエクスプレス」運行
- 1991年 10月 スティーヴン・スピルバーグ監督『E.T.』、TV放映
- 1991年 10月 モロゾフ、船上パーティ
- 1992年 10月 東京・二子玉川のナムコ・ワンダーエッグの「ハロウィンイベント」  
※テーマパークで最初に行われたハロウィンイベントではないかと言われる。ナムコ・ワンダーエッグは2000年に閉園。
- 1994年 10月 ティム・バートン監督『ナイトメアー・ビフォア・クリスマス』の日本公開
- 1997年 10月 カワサキハロウィン  
※2021年まで継続実施。2021年で終了。
- 1997年 10月 東京ディズニーランドの「ディズニー・ハッピー・ハロウィーン」  
※10月31日限定
- 2000年 10月 東京ディズニーランドの「ディズニー・ハロウィーン」  
※10月1日～10月31日。
- 2002年 10月 東京ディズニーランドの「ディズニー・ハロウィン・パレード」  
※10月1日～10月31日。パーク内の大人の仮装は10月31日限定でOK。
- 2005年 9月 東京ディズニーランドの「ディズニー・ハロウィン・パレード」  
※9月12日～10月31日。パーク内の大人の仮装が3日間となる。

2009年 9月 東京ディズニーシーでもディズニー・ハロウィンを開催。

※ディズニーリゾート全体でディズニー・ハロウィンを実施。

2011年 9月 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

※ユニバーサル・サプライズ・ハロウィーン (2011年9月6日～11日3日)

2011年 9月 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの「ハロウィーン・ホラーナイト」

※9月23日～10月31日。

2014年 10月 池袋ハロウィンコスプレフェス

※継続中

2015年 09月 きゃりーぱみゅぱみゅ『Crazy Party Night ～ぱんぶきんの逆襲～』

起点となる年として1983年、1997年、2011年を取り上げておきたい。

第1の1983年は原宿のキディランドが子どもを対象にしたハロウィーンパレードを主催したことだ。これ以前にもモロゾフがキャンイフェアを開始したり、ハロウィーン関係の映画が公開されたが、大きな流れとはならなかった。キディランドの企画はハロウィーンパレードとしたことに大きな意味があり、その後、商店街振興組合原宿表参道櫛会が主催して原宿表参道ハローハロウィーンパンプキンパレードとして継続されている。このイベントが全国的に波及したというわけではなく、ワシントンハイツの子ども達を楽しませようとした(株)キディランドの思い<sup>(1)</sup>が発展しパレードへ、それがさらに地域のイベントになった。一過性のものではなく、しかも子どもを中心にしていることが大きな特徴だ。2023年の展開内容は以下の通りである。

パンプキンパレード

表参道を交通規制し、12歳(小学生)以下の子供達とその保護者で実施する仮装パレード

お菓子ラリー

表参道周辺店舗協力のもと「お菓子ラリー」の実施

ハロウィーンブース(予定)

子供達が楽しめる様な出展ブースを展開予定

ハロウィーン抽選会

10/1からパレード当日までの協力店舗でお買い物やお食事をされたレシート1枚につき千円ごとに1回、最大3回まで抽選会に参加可能。※抽選会場はまちかど庭園

ハロウィーン特別メニュー(10月上旬～31日※店舗による)

協力店舗にてハロウィーン仕様の特別メニュー及びサービスを提供<sup>(2)</sup>

このパレードが全国的に波及したというよりは、子どもを中心にしたハロウィーンを守り続けたという点が大きな特徴であり、地域を盛り上げることに一役買っていると言ってよ

いだろう。なお、1983年4月には東京ディズニーランドが開園し、後に日本のハロウィーンに大きな影響を与えることになる。この時期のハロウィーンの定着について、1970年代についてまず関口英里は次のように述べている。

クリスマスやバレンタインデーに続き、1970年代になって、10月31日のハロウィーンが日本人に知られるようになる。日本で最初のハロウィーン行事は、戦後米軍ベースのあった横浜市本牧地区のアメリカ人とその周辺のコミュニティーのパレードだとする説がある（本牧のあゆみ研究会 1986年）。しかし日本におけるハロウィーンの始まりについて正確に把握するのはむずかしい。いつぼう商業的には1975年、神戸の洋菓子メーカーであるモロゾフが商品の売上げ促進キャンペーンとしてハロウィーン関連商品の販売を始めたのが最初とされる。しかし新聞記事に、「キャンペーンを始めたが、初めはほとんど注目されなかった」（朝日新聞1987年10月28日）とあるように、ハロウィーンは、導入当初からしばらくは人々の関心を集める行事ではなかったようだ（関口 23）。

ハロウィーン関連のモロゾフの商品売上げ促進キャンペーンについて1975年に始めたところがあるが、モロゾフのHPでは1976年のところには以下のような記述となっている。

モロゾフが伝えたいハロウィーン、それはこのお祭りに昔から引き継がれてきた、数々の催しの楽しさでした。それまで日本であまり知られていなかった欧米の楽しい行事「ハロウィーン」を全国に紹介すべく、「ハロウィーンキャンディフェア」と題して商品の展開を開始しました。子どもたちが「トリックオアトリート！」といいながら近所の家々の戸をたたいてまわり、やってくる子どもたちのためにキャンディをたくさん用意することにちなんだフェアでした。商品はキャンディを詰めあわせた「ジャック オランタン」や、麻袋を使った「コーヒーキャンディ」を展開し、今もなおご愛顧いただいている商品の原型を多数生み出しました<sup>(3)</sup>。

続いて関口は1980年代について以下のように述べている。

…ハロウィーンはこの時期によく商業イベントとして日立った展開をみせはじめる。1980年代前半になると、ハロウィーンが存在が徐々に人々に知られるようになり、菓子や玩具業界がハロウィーン関連商品の販売を開始する。東京・表参道では198年、雑貨販売店のキディランド主催による親子向けイベント「ハローハロウィーンバンプキンパレード」が開始されている。また1985年12月には少女向けのホラー漫画月刊誌『ハロウィーン』（朝日ソノラマ社）が創刊される。同誌は1987年当時、実売12万部をこえるオカルト・恐怖系専門マンガ雑誌で、とくにティーン層に強い人気を博していた（朝日新聞1987年10月28日）。日本のハロウィーンはホラーブームと一体化するかたちで、若

者中心にオカルトイメージ先行で認識されていったと考えられる。

1985'年頃からは百貨店業界や、菓子業界などが本格的に秋の季節を演出するイベントとしてハロウィンに注目しはじめる。また渋谷や六本木など、若者や外国人が多く集まる都市部の商業施設でもハロウィン行事が広がりを見せた。各業界ともハロウィンイベントに欠ける10月の新たな商機ととらえて、ハロウィン関連の販売促進活動に力を入れていた様子が見え始める（朝日新聞1991年10月9日）（関口30-31）。

日本国内の動きではないが、1992年10月17日にアメリカの日本人留学生がハロウィーンの時期に射殺されるというショッキングなニュースが駆け巡った。

とくにアメリカで日本人留学生が射殺された事件は、ハロウィンにとって致命的な悪印象を与えた。1992年10月17日、アメリカ・ルイジアナ州のパトンルージュで、現地の高校に通う服部剛丈君（当時16歳）がハロウィンパーティーに向かう途中、誤って隣家のドアチャイムを鳴らしたことから強盗と間違えられ、射殺されてしまったのである。この事件は日本で大きく報じられ、人々に衝撃を与えた。その後、ハロウィンをめぐる事件や犯罪関連での報道ばかりが目につくようになり、商業的な注目度は逆に急降下してしまった（関口31）。

報道では“Freeze”（止まれ）と言われたが、わからなかったようだという報道もあった。この当時の報道は筆者自身も関心をもって見聞した。また、10月31日ではなく、10月31日以前の週末にパーティを開いていた状況などもかなり気になったところだ。

第2の1997年は東京ディズニーランド（TDL）でディズニー・ハッピーハロウィーンが開催されたこと、また、地域活性化の意味合いから始まったカワサキハロウィンが開始された。TDLのハロウィンイベントは1997年からは10月31日限定、2000年からは10月1日～10月31日、2005年からは9月12日～10月31日となり、大人の仮装が3日限定でOKとなった。2009年には東京ディズニーシーでも開催されるようになり、東京ディズニーリゾート全体に広がり、現在の形になった。9月2週目からハロウィンが開始される素地を作ったことになる。ハロウィーンを9月～10月31日の時期にした素地はこのTDLの動きが大きいと言わなければならない。この動きは様々な業界に波及的な効果を生み出し、11月から始まるクリスマス商戦までの空白の期間を埋めるビジネスチャンスを生み出したことになる（佐々木b 379）。

カワサキハロウィンは渋谷ハロウィーンとは全く異なり、主催者のもと安全にハロウィーンを楽しむという趣旨で開催されてきた。しかし、2021年でこのイベントも終了となった。

日本でまだハロウィンが珍しかった1997年、JR川崎駅前のシネマコンプレックス

「チネチッタ」の10周年を記念した行事として「カワサキ ハロウィン」は誕生しました。“川崎に東京からも若者を呼べる刺激的なイベントを作ろう！”をテーマに、仕掛けたのは「チネチッタ」の他、川崎を拠点に様々なエンターテインメント事業を展開する株式会社チッタ エンタテインメントです。スタート直後こそ、参加者集めに大変な苦勞をしましたが、大音量のクラブサウンドを轟かせながらの仮装ダンスパレードという、当時としてはかなり尖った企画が徐々に若者たちに支持され始め、「カワサキ ハロウィン」は規模拡大を続けました。それに伴い、川崎を盛上げたいとの気概ある商店街や商業施設が次々と主催に名を連ね、2010年代には、川崎市も含め主催25団体、パレード参加者約3000人、国内外から集まったパレード観覧者約12万人という日本最大規模のハロウィンイベントへと成長しました。

しかし2015年頃からは、過熱化したハロウィンプームに警鐘を鳴らすネガティブな報道も目立つようになります。同時に、ハロウィンを楽しむ場も大都市の繁華街やテーマパークに限らず、一般家庭やネット上にまで広がり、その楽しみ方もどんどんと多様化して行きました。気が付けば「カワサキ ハロウィン」の盛り上がりもそのピークを過ぎ、私たち主催者がそろそろ止め時との判断をしたのは、実は、日本がコロナ禍に見舞われる直前の昨年2月頃の事です。当初の計画では、GW明けに大々的に“最終回”を宣言し、華々しくフィナーレを迎えるはずでしたが、予期せぬコロナ禍に阻まれ計画変更を余儀なくされました。しかし、その後も私たちの思いは変わりませんでした。私たちは今、「カワハロ」の次に目を向け、新たな挑戦を始めようとしています。

これまで「カワサキ ハロウィン」に関わって下さった全ての皆様に、心よりお礼を申し上げます。長い間、本当にありがとうございました。親子2代にわたって参加下さった方々もいらっしゃいました。私たちの想像力を遥かに超える個性的な仮装者たちとの年に一度の出会い、他には代えがたい楽しみでした。沢山の素敵な思い出をありがとうございました。

2021年8月27日

カワサキ ハロウィン プロジェクト (4)

地域活性化という目的をはっきりと持ち、原宿のハロウィーンパレードとは異なり、子どもだけに限定せず、若者、大人にも門戸を開き、川崎市も巻き込み実施されてきたが、ハロウィーンが浸透してきたこと、渋谷に代表されるように「荒れるハロウィーン」の悪い印象が付きまとうようになり、カワサキハロウィンもその役目を終えたということだろう。大きなトラブルが起き前に終幕したことで、主催者のもと整然と行われたハロウィーンイベントという大きな成果ままで終えることが出来たことになる。

第3の2011年は3月11日に起きた東日本大震災以後、特に同年に大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンのハロウィーンナイトが開始されたことだ。その期間は2011年9月6日(火)～2011年11月3日であった。東日本大震災により「絆」が注目を浴び、家

族というものがあらためて考えさせられた機会となった。また、都内では2014年10月に主催者のいる池袋ハロウィンコスプレフェスが開催されるようになるなど、イベントの定着が進んでくる。

こうした背景を受けてハロウィーンの推計市場規模も2016年にはクリスマスに次いで規模となった。

『DIAMOND Chain Store』（第47巻第16号、ダイヤモンド・リテイルメディア、2016年9月）の室作幸江「ハロウィン市場のさらなる活性化のカギは『家族』『具体的な鼓動』『スーパー』」には以下のような記事がある。

日本でハロウィンが広く認知されるようになったのはいつ頃なのか。マイボイスのアンケートデータベースサービス「MyEL（ミエル）」では、2008年から継続的にハロウィン調査を実施しているが、それによれば、12年頃を境にして、ハロウィンの認知が一気に高まり、そのイメージが明確に変わってきた報告している。

調査を始めた08年はハロウィンに対する印象が薄く、10年になると、テーマパークでのイベントやスーパー店頭で見かけるハロウィン用の限定商品に興味を持たれ始めるものの、大きなムーブメントには至っていない。

ところが、12年になると「ハロウィン＝シェアするイベント」の側面編み始める。「仮装した写真をSNS（ソーシャルネットワーク）などにアップする」「友達が仮装の写真をアップしていた」といった発言が目立つようになってきた。また、限定商品やイベントも定着し始め、本来の意味はさておきハロウィンというイベントの認知度がいよいよ高まっていく。

13年以降は、ハロウィンの盛り上げりがテレビなどさまざまなメディアで広く伝えられた、「ハロウィン＝みんなで盛り上がるイベント」とイメージされるようになった（室作 136）。

2016年の高まりは2011年以降の復興、2013年以降は東京オリンピック招致決定後の社会的盛り上がり、ハロウィーンにも反映されたのだろう。

## 2 日本のハロウィーンの定着度合いは

ハロウィーンがどれくらい定着したかを判断するひとつの材料として、ハロウィーンの推計市場規模が参考になろう。日本記念日協会・記念日文化研究所が発表している数字を整理すると以下の通りとなる。

2011年 560億円<sup>(5)</sup> 東日本大震災

2014年 1,100億円<sup>(6)</sup>

2015年	1,200億円 <sup>(7)</sup>	
2016年	1,345億円 <sup>(8)</sup>	リオデジャネイロオリンピック
2017年	1,305億円 <sup>(9)</sup>	
2018年	1,240億円 <sup>(10)</sup>	荒れた渋谷ハロウィーン、軽トラック横転
2019年	1,155億円 <sup>(11)</sup>	台風19号、消費税増税、即位礼正殿の儀、ラグビーワールドカップ
2020年	新型コロナウイルスの影響で推計不能と判断しました <sup>(12)</sup>	
2021年	1,050億円 <sup>(13)</sup>	

市場規模を取り上げる際によく引き合いに出されるものとしてクリスマス、バレンタインがある。

日本記念日協会・記念日文化研究所は2015年10月12日にハロウィーンが急成長した理由について以下の7点をあげている。

1. 仮装という非日常を体験できる自由な祭りを人々は求めていた（全国各地の秋祭りの衰退に反比例しているかのようにも思える）。
2. 誰もが参加できる雰囲気があるので誘いやすく誘われやすい。友だちやグループなどでパレードに参加するのも、それを見るのもお手軽感があり、ハードルが低い。
3. 2011年の東日本大震災以降、家族や地域の結びつきの大切さを思い、「ハロウィン」というみんなで参加して楽しむイベントで実感したいという人が増えた。
4. 魔女やゾンビ、キャラクターのコスプレの行列など「絵になる」要素が多く、誰かに伝えたいというメディアやSNSの世界には絶好の機会である（SNSで拡散された日本の「ハロウィン」の楽しさ、面白さ、上質さは海外にも拡散し、わざわざこの時期に訪れる外国人も増えている）。
5. 年中行事のようになればその関連商品は間違いなくある程度は売れるので「ハロウィン」のように自由度の高いイベントは「もしかしたらウチの商品、サービスでも参入できるんじゃないか」と思う企業が増えた（パッケージを「ハロウィン」仕様にする商品、料理を「ハロウィン」メニューにする店が急増した）。
6. 地域の再生を模索する地方の商店街や百貨店、小売店にとって、地域密着を謳うのに最適な新しい行事になっている。
7. 「ハロウィン」の様子が話題になればなるほどメディアが取り上げる機会が増大し、それがまた新しい話題を呼び、情報量が雪だるま式に増えていく（日本記念日協会への「ハロウィン」に関する取材の申し込みは10月10日時点で4前年の28件から61件と2倍以上の33件も増えている。<sup>(14)</sup>

概ね上記の7点に集約されるだろう。第1については特に渋谷ハロウィーンにその様相



が現れているように思われる。筆者は以前「非日常化」について次のように指摘した。

…非日常化、劇場効果は「渋谷」、都会のど真ん中という点が大きいの。平日や昼間では絶対にありえない、また、絶対に許されないことであるが、「とりあえずビール」ではないが、「とりあえず渋谷」に行けばなんとかなるといった漠然として考えを持った若者、どんな感じか 1 度は行って見てみたいという思いの頂点が 2018 年に訪れたということだろうか。また、「自由」の意味をはき違えてはいるが、渋谷なら若者が自由に動けるといった様相があるのもまた要因のひとつだろう（佐々木 b 411）。

第 4 点について穂積由は日本のハロウィーン大流行を紐解くキーワードとして「印象操作」を挙げている。

ハロウィーンの仮装にも、印象操作の要素がある。肩を露出したバニーガールの仮装をした写真をInstagramにアップする女子大学生は、「時代にのったイケてる可愛い子」と見られたいのかもしれない。ピンクの全身タイツにカービィの面をかぶった写真をTwitterにアップする男子大学生は、「人とは違ったアイデアを持つ面白い奴」と見られたいのかもしれない。また、仮装をせずに家でゴロゴロしている様子をInstagramのストーリーにアップする人は、「ハロウィーンのような流行に流されず、自分のペースで生きている人」と見られたいのかもしれない（穂積 10-11）。

いずれにしても SNS の素材集めの一環として非日常感を味わうにはうってつけの機会であることは間違いない。しかも、自分の家や近くの公園ではなく、あの渋谷センター街でコスプレした自分の写真を撮ることが重要なのである。筆者は日本のハロウィーンの特徴として 3 点を指摘したことがある。

海外のハロウィーンと日本で繰り広げられているハロウィーンの違いは 3 つある。第 1 に本来ハロウィーンは 10 月 31 日限定の行事であるが、日本の場合には長期化の傾向にあること。第 2 に仮装が多様化し、いわゆるコスプレ化していること。第 3 に“trick or treat”はお菓子がもらえるこどもが主役となっているが、日本の場合には若者を中心にあらゆる世代へとイベント化としていることだ。クリスマスもそうであるが、日本での変容では無宗教化、大衆化の方向にある（佐々木 b 366）。

特に第 1 の長期化と第 3 の若者中心のイベント化は注目しなければならない。この長期化の背景は以下の通りである。

一般的には夏休みが終わり、クリスマスまでの時期で市場をにぎわすことのできるも

のを利用しようとしていることだ。クリスマスのイベント関係も11月初旬あるいは中旬から始まる傾向にある。七五三の行事はかなり限定されてしまうため、おそらく業界としては9月中旬から10月の間で活用できるイベント等を探しているところへ、この数年急成長を遂げているハロウィンが特に目立って来たということだろう。これに加えて、地域振興や地域の活性化という自治体等の動きも加わっている。経済効果のあるものについてはこれを取り込み、活用しようという姿勢である。日本になかったイベント、クリスマス、バレンタイン・デー、さらにはバレンタイン・デーから派生するホワイト・デーが定着してきたのは企業戦略の役割が大きい。例えば、ウェディング・ドレス、「婚約指輪は給料の3ヶ月分」の定着もブライダル業界の戦略も同様だ。ハロウィンの場合には多方面に波及的效果があるため、クール・ジャパン政策によく似ている。いずれの場合にもハロウィンを活用して集客力を高めていると言った方がよいかのかもしれない(佐々木b 366-367)。

日本では消費行動を喚起されるイベント的なものが9月～10月下旬まで不在の状態であるということだ。11月以降は歳末商戦、クリスマス商戦、最近ではアメリカで行われていた11月下旬のBLACK FRIDAYが導入されている。ENGLISH LIVE「アメリカの祝日：THANKSGIVING(感謝祭)とブラックフライデー」では次のような説明がある。

ハロウィンが終わると日本では一気にクリスマス気分になりますが、アメリカでは一年のうちでもっとも重要なイベントである『Thanksgiving Day』が11月の第四木曜日に行われます<sup>(15)</sup>。

感謝祭が終わると、今度はクリスマスと年末に向けた大規模なセールが各地で開催されます。特に、感謝祭の翌日の金曜日は『ブラックフライデー』と呼ばれており、買い物客でショッピングモールは大混雑。そのセールの額も半端ではありません。まさに激安セールです。しかも、朝の6時からオープンというお店が多く、お目当ての電化製品を買い求め、真夜中から外で並ぶことも名物になっています<sup>(16)</sup>。

第3の若者中心のイベントについては2極化している。一つは子ども中心というコンセプトを保持している1983年を起源とする原宿表参道ハローハロウィーンパンプキンパレードはその典型であるが、若者を中心にした大人が気軽にコスプレを楽しめるイベントが東京ディズニーランドで開始されるようになったこと、これまでオタク文化としてその象徴的なイベントであったコミックマーケットに見られていたコスプレイヤーが登場し、やがてもっと気軽なコスプレが出来る環境が整い、これがハロウィーンと融合したと見る流れがある。筆者は基本的に仮装とコスプレは異なっていると考えている。特に英語では“costume play”から“cosplay”の方が定着していることもある。英語の定義では“costume play”と“cosplay”は区別されている(佐々木a 2541-2542)。自分でコスプ

レの衣装を制作する場合もあろうが、ドン・キホーテや百円ショップと呼ばれるような店舗で気軽に、しかも安価で購入できる市場が提供されたという背景は無視できないだろう。これまで忘年会などでのいわゆるバラエティグッズや変装・仮装の衣装から、コスプレの衣装が揃えられるようになったことだ。

日本のハロウィーンの定着にはイベントの定着と消費行動喚起・イベント参加喚起が毎年9月2週目あたりから継続的にマスコミを利用した宣伝、ハロウィーンが近づくにつれて店頭の商品やディスプレイにハロウィーン関連のものが並び、購買意欲を高めていく。スーパーなどでは毎年小分けされたあめやチョコが販売され、お店を訪れる客はこうした商品を見て反対にハロウィーンの時期が来たことを意識するようになるのだ。

2016年にハロウィーンの市場規模が最大となったのは2011年の東日本大震災後、2013年には東京オリンピックの招致決定、2016年のリオデジャネイロオリンピックがあり、日本全体が活気を取り戻す時期と重なっていることが大きな要因であろう。また、菊地悠人「ハロウィーン市場膨張 アンチを味方にできるか」(2016)で次のような記事を『週刊東洋経済』(第6693号、11月12日号)に掲載している。

博報堂ブランドデザイン若者研究所の原田曜平氏は、「10月は若者が楽しめるイベントがこれまでなかった。男女のつながりが必要なバレンタインと異なり、ハロウィーンは友達同士などでも楽しめることが普及した要因」と分析する。

このビジネスチャンスに乗り遅れまいと各社が躍起になる中、ドンキホーテホールディングス(ドンキ)は、10年以上前から仮装グッズなどを展開。当初は客の認知がほとんどなかったが、09年ごろから急速に売り上げが伸び始め、昨年はクリスマス関連に迫るまでになった。

今年も渋谷店では、最も目立つ1階店舗入り口から店内奥深くまで仮装グッズを所狭しと陳列。特に女性客は「他人とかぶらりたくない」というニーズが強いことから、年初から動き始めて1000種類以上のアイテムを取りそろえた。ピーク時のハロウィーン直前には1日で1万人超が来店。今年の売れ筋はピカチュウやマリオなどのコスチュームだったようだ。

さらに今年初めの試みとして、渋谷店の近くのビル2フロアを使い、10月21日~31日の期間限定店舗をオープン。仮装グッズの販売やお化け屋敷の運営などビジネスを展開しつつ、渋谷区役所の協力要請を受けて不足する更衣室やトイレなども提供した。

このように企業側が街の秩序形成のために自治体とタッグを組むのは、一部の度を越した騒ぎに不愉快な思いを抱いている人が少なからずいるからだ(菊池 380)。

ビジネスとしてのハロウィーンはこの「度を越した騒ぎ」に影響を受けている。それは今や渋谷にとどまらず全国に波及し、「荒れたハロウィーン」により、ハロウィーンのイメージ低下と言う問題もあり、2023年のハロウィーンの在り方はひとつの試金石になるので

はないだろうか。

一方市場規模の減退が 2018 年から 2019 年が大きかった理由は明らかだろう。株式会社マーチャンダイジング・オン『2019 年ハロウィン向けお菓子市場の動向』では 2019 年の現象予測として次のように取り上げている。2019 年の減少予測の主な理由は 3 つ挙げている。

- ①消費増税（出費を避けようとする人の増加）
- ②ラグビーワールドカップや天皇陛下の「即位礼正殿の儀」等の他のイベントとのカニバリゼーション
- ③関係悪化による韓国からの観光客減少<sup>(17)</sup>

筆者は特にこの 2 のうち、ラグビーワールドカップに注目した。

②については特にラグビーワールドカップが日本で開催されたのが、2019 年 9 月 20 日～11 月 2 日までであったことが大きく影響したことは推測のできることだ。10 月 26 日、27 日は準決勝、11 月 2 日が決勝と 3 位決定戦であった。日本は 10 月 20 日の南アフリカ共和国戦との準決勝で敗れた。その視聴率も 40%を越える高視聴率であったことはたびたび報道された。ハロウィーンは 10 月 31 日であるが、この日の 1 週間以上前から徐々に盛り上がりみせるのが渋谷ハロウィーンの特徴だ。ところがその前段階が日本国中を上げたラグビー・フィーバーとなった。にわかファンとの揶揄を通り越し、日本の応援だけでなく、まさに一時期ラグビー一色になったと言っても過言ではないだろう。この背景には翌年に 2020 東京オリンピックがあることが大きく影響していることは言うまでもないことだ。熱狂のあとのハロウィーンはイベント疲れから下火になったと見るのが妥当なところではないだろうか。前述の通りそこへさらに台風の到来ともなれば、下火になるのは当然の流れだろう（佐々木 b 364）。

ハロウィーン推定市場において 2016 年がピークであったがその後は減少している。日本記念日協会が「2019 年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約 7%減の約 1155 億円」として以下のような分析を行っている。

... 「ハロウィン」の推計市場規模減少の主な理由を並べてみたが、それでも約 1155 億円は日本記念日協会が推計調査している記念日の中では「バレンタインデー」（約 1260 億円）「母の日」（約 1205 億円）に次いで 3 番目。「ホワイトデー」（約 490 億円）の 2 倍以上も大きい。それは全国各地の菓子メーカー、ホテルやレストランやカフェ、テーマパーク、商店街、それにネット通販会社などが 10 月下旬の一大イベントとして売上、集客を図ろうとさまざまな企画を用意しているからだ。「ハロウィン」パッケージのお菓

子を提供する菓子メーカー、スタッフがモンスターなどに扮してゲストを迎えるホテル、「ハロウィン」メニューを用意するレストランやカフェ、施設の景観を「ハロウィン」仕様にするテーマパーク、「ハロウィン」の限定商品を多数用意するネット通販などなど。

しかし、これからも「ハロウィン」が 1000 億円規模の市場を形成していくには単に家族や友人と仮装やパーティーで楽しむ日というだけではなく、この日だからこその理由づけ、意味づけ、そしてギフト市場を開拓する必要がある。

「冬が来る前に心を温める準備の日」「冬が来る前に友人、知人との距離を縮める日」としてのイベントや商品を開発してはどうだろう。シンボルもカボチャやランタン、コウモリ、黒猫などだけでなく、ローソク、ストーブ、ランプ、薪、シチュー、ホットケーキ、ホットミルク、友情手帳、温かい言葉などを加えて「ハロウィン＝温かい気持ちになる日」に進化させるというわけだ<sup>(18)</sup>。

市場規模で大きいのはクリスマスである。株式会社インテージ「インテージ、「コロナ禍で過ごすクリスマス」意識と行動を調査 2021年のクリスマス関連の市場規模は2兆800億円を予測（前年比128%）」によるとここ数年のクリスマス関連市場は以下の通りである。

今回の調査結果と15～79歳の推定人口※から「クリスマス関連市場規模」を試算したところ、2019年は2兆1,456億円、2020年は1兆6,220億円（前年比76%）、2021年の見込みは2兆816億円（前年比128%）となりました。2019年と比較すると97%とわずかに下回りましたが、生活者のお財布の予算は2019年度並みに戻りつつあるようです<sup>(19)</sup>。

クリスマス関連と少し幅があるが、他のデータなどではクリスマス市場規模は概ね5500億～6000億円と言われている<sup>(20)</sup>。それでもクリスマスは別格と断言していいだろう。しかし、クリスマス、バレンタイン、母の日は贈り物が付き物だ。日本にはもともとお中元、お歳暮と言った贈答文化があるだけに、人のためにお金を出す文化が根底にあり、これに恋愛的なものが加われば、そこで支出する費用は大きくなるのが数字的にも表れている。

### 3 渋谷とハロウィーン

渋谷ハロウィーンを捉えるには点で考察することはできない。そのため、渋谷に若者が集まる要因を2001年までの流れ、2002年～2011年、2012年～2019年、2023年と見ておきたい。また関連事項を加えて時系列で見ておきたい。

1956年12月 東急文化会館（～2003年6月）

- 1965年 6月 渋谷東急ビル（～2015年3月）
- 1965年 2月 渋谷公会堂（～2015年10月）
- 1967年 11月 東急百貨店本店（～2023年1月）
- 1968年 4月 西武百貨店
- 1969年 7月 ジェン・ジェン（～2000年4月）
- 1973年 渋谷に複合交差点、通称スクランブル交差点が誕生。
- 1973年 6月 パルコ（Part 1）
- 1975年 12月 パルコ（Part 2）
- 1978年 9月 東急ハンズ
- 1979年 4月 SHIBUYA109
- 1981年 9月 パルコ（Part 3）
- 1987年 11月 シブヤ西武ロフト館
- 1989年 9月 BUNKAMURA
- 1995年 4月 小倉基、渋谷区長（1995年4月27日～2003年4月26日）
- 1999年 12月 Qフロント
- 2001年 12月 スクランブル交差点前のQフロントの大画面を利用したカウントダウンイベント（石井 48）。
- 2002年 6月 サッカー、日韓ワールドカップ  
 ※新横浜国際競技場：対ロシア戦後、渋谷スクランブル交差点でハイタッチムーブメントが誕生。
- 2003年 4月 桑原敏武、渋谷区長（2003年4月27日～2015年4月26日）
- 2006年 9月 ジャスティン・リン監督『ワイルド・スピード X 3 TOKYO DRIFT』公開  
 ※渋谷が舞台。
- 2009年 12月 スクランブル交差点で、突発的にカウントダウンが始まる（石井 48・51）
- 2010年 6月 サッカー、南アフリカワールドカップ  
 ※対デンマーク戦後、渋谷スクランブル交差点でハイタッチムーブメント。
- 2010年 8月 ポール・W・S・アンダーソン監督『バイオハザード□ アフターライフ』公開  
 ※雨降る渋谷駅前のスクランブル交差点から始まる。アメリカは2010年9月公開。
- 2011年 3月 東日本大震災
- 2011年 9月 センター街メインストリートを「バスケットボールストリート」と改名
- 2012年 4月 渋谷ヒカリエ
- 2013年 3月 東急東横線と東京メトロ副都心線との直通運転
- 2013年 9月 2020東京オリンピックの招致決定

- 2015年 4月 長谷部健、渋谷区長（現職）（第1期）
- 2015年 7月 細田守監督『バケモノの子』公開  
※渋谷スクランブル交差点が登場。
- 2015年 12月 渋谷区、スクランブル交差点でカウントダウンイベント
- 2016年 8月 リオデジャネイロオリンピックの閉会式でのPR映像のスタートがスクランブル交差点
- 2016年 10月 渋谷区、仮設更衣室や仮設トイレの設置
- 2016年 10月 渋谷駅東口商店会「渋谷ハロウィン仮装コンテスト」（継続中）
- 2016年 12月 渋谷区と地元商店街等運営でスクランブル交差点でカウントイベント
- 2017年 5月 MEGA ドン・キホーテシブヤ本店
- 2017年 8月 SHIBUYA109前で盆踊り大会  
※渋谷道玄坂商店街振興組合が初めて実施。主催者発表で来場者は約34,000人だった。
- 2017年 12月 渋谷区と地元商店街等運営でスクランブル交差点でカウントイベント
- 2018年 6月 サッカー、ロシアワールドカップ  
※対コロンビア戦後、渋谷スクランブル交差点でハイタッチムーブメント。DJポリス登場。
- 2018年 10月 センター街でのハロウィン騒動  
※軽トラック横転事件
- 2019年 4月 長谷部健、渋谷区長（現職）（第2期）
- 2019年 6月 渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例
- 2019年 10月 LINE CUBE SHIBUYA
- 2019年 11月 渋谷スクランブルスクエア（東棟）
- 2019年 11月 芥見下々『呪術廻戦』（八三話「渋谷事変①」）  
※『週刊少年ジャンプ』。場面は2018年10月31日。
- 2020年 4月 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言  
※行動制限が求められる。
- 2020年 12月 波多野貴文監督『サイレント・トーキョー』公開  
※ハイライトが渋谷スクランブル交差点。
- 2021年 2月 新型コロナワクチンの接種開始  
※医療従事者、高齢者は4月より開始。
- 2022年 4月 TVアニメ『パリピ孔明』（TOKYO MX 他）  
※諸葛孔明が10月31日のハロウィーンで盛り上がる渋谷センター街に転生して登場。
- 2022年 4月 満仲勸監督『名探偵コナン ハロウィンの花嫁』公開  
※渋谷が舞台。渋谷スクランブル交差点上空で銃弾が飛び交う。
- 2023年 3月 耶雲哉治監督『刀剣乱舞 黎明』公開  
※渋谷スクランブル交差点に登場シーンがある。

- 2023年 4月 長谷部健、渋谷区長（現職）（第3期～2027年4月26日）
- 2023年 5月 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類へ
- 2023年 8月 TVアニメ『呪術廻戦 渋谷事変』（TBS系列）放映開始
- 2023年 9月 ジャスティン・シミア監督『ホーンテッドマンション』公開
- 2023年 9月 長谷部区長、ハロウィーンに「渋谷に来ないで」宣言  
※9月12日。
- 2023年 9月 実写ドラマ『パリピ孔明』（フテレビ系列）放映開始。  
※諸葛孔明が10月31日のハロウィーンで盛り上がる渋谷センター街に転生して登場。
- 2023年 10月 長谷部区長、日本外国特派員協会で「渋谷に来ないで」を記者会見。  
※10月5日。
- 2023年 10月 渋谷区、渋谷駅前に「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません」（NO EVENTS FOR HALLOWEEN ON SHIBUYA STREETS）の巨大看板を設置（費用約4800万円投入）  
※10月17日。
- 2023年 10月 ハチ公像の封印  
※10月28日。



(21)

渋谷でのハロウィーンを考えるにはキーワードとして渋谷センター街、スクランブル交差点がある。位置的にも渋谷駅⇄スクランブル交差点⇄渋谷センター街という流れがある。なかでもスクランブル交差点は世界でも注目されるスポットとなっている（石井 42）。

スクランブル交差点の交通量は、一回の青信号で、混雑時には3千人、一日50万人にも上る見なされている（石井 42）。

スクランブル交差点での人の往来はネット上でも簡単に見ることができる。このスクランブル交差点は映画やアニメなどでも象徴的な場所として描かれ、日本だけでなく、世界中に知られるようになった。概ね共通している考え方としては2002年の日韓ワールドカップがまず国内での注目の場所になり、その後インターネット等で拡散されていったことが大きいだろう。

自然発生的に起きた渋谷ハロウィーンは渋谷センター街にハロウィーンの時期になると人が集まり、2018年には軽トラックの横転事件まで起き、渋谷区の対応に注目が集まった。主催者のいない、制御しにくい状態が続いていた背景があった。しかし、渋谷ハロウィーンの騒動について2018年と2019年というこの2年だけを見る場合とそれ以前の流れを含



めてみる場合とではその捉え方は大きくことなるのではないだろうか。

#### 渋谷ハロウィーン&若者が集まる起点の考え方

1	2018年と2019年	渋谷センター街での軽トラック横転以降
2-1	2002年から考える	日韓ワールドカップ以降
2-2	2013年から考える	2020東京オリンピック・パラリンピック招致決定以降

第1の「2018年と2019年」だけを見れば、ハロウィーンの時期に備えて2018年では渋谷センター街周辺のコンビニエンスストアなど計7店舗に、31日午後6時から翌1日午前0時まで、瓶に入った酒類の販売を自粛するように要請するなど、これまでと異なった対応をとることが発表されていた。『朝日新聞』（2018年10月27日）によれば、「ハロウィーンは31日に楽しむもの」（担当者）という認識がある。31日がハロウィーン当日であるため、対策の中心はこの日に取ればよいというような認識である事が読みとれる。2018年10月27日（土）はハロウィーンに最も近い週末であり、実際に軽トラックが横転させられたのは27日深夜から28日未明のことであった。対策の強化はこの事件が起きてから厳戒態勢となる。2018年だけを見れば区の対応はハロウィーン当日の10月31日の対応で、週末についてはあまり意識していなかったような印象が強い。結果的にハロウィーン終了後に長谷部渋谷区長は「来年は顔認証のテクノロジーを活用して参加を有料制にすることやパレード形式、代々木公園への誘導などを検討しているという」（『朝日新聞』2018年11月2日）と語っている。2018年の軽トラック横転を受けて2019年6月に渋谷区は「渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例」を定めた。この条例には罰則がないため、主催者のいない、自然発生的な渋谷ハロウィーンの対策としてどの程度効力があるのかということについては指摘が多くある。第6条と第7条が規制の核となる条文である。

#### （公共の場所における飲酒の制限）

第6条 来街者は、次の各号に掲げる期間において、渋谷駅周辺地域のうち、区規則で定める区域内の公共の場所（道路、公園、広場その他公共性を有する場所をいう。以下同じ。）で飲酒をしてはならない。

- (1) 10月31日及び11月1日並びに10月24日から同月30日までの金曜日、土曜日及び日曜日
- (2) 12月31日及び1月1日
- (3) 前2号に掲げる期間のほか、区長が特に必要と認める期間

2 区長は、前項の規定による飲酒の制限について、時間帯を限って行うことができる。

#### （迷惑行為等の禁止）

第7条 来街者は、法令に定めのあるもののほか、渋谷駅周辺地域の公共の場所におい

て、正当な理由なく、次の各号に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 音響機器等により音を異常に大きく出す行為
- (2) 放尿等をする行為
- (3) 街路灯、標識、屋根等に上る行為
- (4) 前3号に掲げるもののほか、他人に迷惑を及ぼす行為又は危害を及ぼすおそれのある行為

第6条ではまさに「飲酒」について地域、時間帯で制限できるようにしていることが最も大きな特徴だろう。

(指導)

第8条 区長は、第六条の規定に違反する行為をしていると認められる者に対し、当該行為を中止するよう指導することができる。

条例では罰則はなく、「指導」と言う内容であり、店舗等に対する対応も同様である。

(事業者の責務)

第4条 事業者は、この条例の趣旨を十分に理解し、関係法令を遵守するとともに、渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保のため、区が実施する酒類の販売自粛等の施策に協力しなければならない。

2018年のハロウィーンを渋谷センター街でリサーチした山内輔は次のように述べている。

…土日から水曜にかけて、メディアの報道が過熱する。2018年では28日未明の軽トラック事件を契機に、報道番組で特集が組まれ、朝から晩までハロウィーンの話がお茶の間を騒がせた。ツイッターでは、トレンドをハロウィーンが独占し、活発な議論が行われた。こうした影響から、人々の中で渋谷に対留守イメージが構築されていく。

渋谷という街は、誰しもが「ヒーロー」になれる。テレビカメラに映り、知らない人同士で写真を撮って、この日だけは退屈な日常から解放されるのだ。セクシーな衣装をした女性2人組が言っていたように、「今日だけはちやほやされたい。なんでも許してほしい」という心理が強く働いていると思われる。

そして、こうした要因が複雑に絡まりあい、普段、渋谷にいない人も、10月31日、渋谷へ吸い寄せられていくのだ(山内 212)。

山内また次のようにも述べている。

渋谷ハロは、デモなどとは違い、世論を形成したりするわけではないが、ここまで人が集まってやりたい放題騒ぐのは、「なにをやっても許される」というイメージが群衆の中で感染していった結果である。実際、10月28日の軽トラ事件がメディアで報道されたことで、同じようなことをしたがる人々を31日に誘引してしまったのは、既に説明した通りである。こうした群衆の行動は、衝動的であり、過激化する。渋谷では莫大な数の人が集まり、スクランブル交差点やセンター街はさながら満員電車状態になってしまう。こうした環境では、誰がやったかわからない状況を招き、責任の所在が不明になる。この結果、個人のモラルが低下し、過激化を招いているといえる。

このように人は群衆の中に置かれると没個性化 (deindividuation) する。没個性化とは、多くの人の中で埋もれ、アイデンティティを一時的に失ってしまう状態のことだ (ソロモン、2015)。平たく言うと、自分だということがすぐにわからないような状態では、通常の自分ではないような大胆なことをしてしまう、ということである。このような状態に陥ると、罪・恐怖心・恥といった感覚が薄れ、本来であれば抑制されるはずの行動が誘発されてしまう。渋谷に集まり、社会規範から外れた行動をとってしまうのは、まさしく没個性化の影響といえるだろう。

没個性化は、匿名性の高い状況で起こりやすい (山内 216-217)。

2018年の軽トラック横転事件を受けて、酒類の販売をどう規制するのかということが大きなテーマであったようだが、これまで「10月31日がハロウィーン当日」という意識が強く、ハロウィーン近辺の週末に対する注視が弱かったが、この条例により10月24日～11月1日まで規制が出来る範囲となったことは一応の成果である。

条例は渋谷区が定めたものの、実際にハロウィーンに渋谷を訪れるのは渋谷区以外の人達であり、どう周知するのが最も大きな課題である。その意味で2019年度の周知の仕方は不十分であったように思える。条例を定めた2019年6月20日近辺はマスコミなどが取り上げたものの、ハロウィーンの時期に渋谷を訪れる人達がこの条例をインターネットで見て理解しているとはとても思えない。むしろ、当日、規制がある事を言われて面くらう人が多かったのではないだろうか。問題は条例の周知の方法だ。

2020年～2022年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、法令上も第2類ということから、人出はある程度少なかったわけであるが、渋谷区の対応が最も試されたのが2023年のハロウィーンである。

2023年 9月12日 長谷部区長、ハロウィーンに「渋谷に来ないで」宣言

2023年 10月 5日 長谷部区長、日本外国特派員協会で「渋谷に来ないで」を記者会見。

2023年 10月 17日 渋谷区、渋谷駅前に「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません」(NO EVENTS FOR HALLOWEEN ON SHIBUYA STREETS) の巨大看板

を設置（費用約 4800 万円投入）

2023 年 10 月 28 日 ハチ公像の封印

2023 年の渋谷ハロウィーンで大きな騒動がなかったことはこうした動きが一定の成果を収めたと言ってよいだろう。それにはいくつかの理由が考えられる。

- (1) 2022 年の韓国・ソウルで起きた梨泰院での雑踏事故を受け、渋谷区をはじめ、マスコミなども 2023 年の渋谷ハロウィーンについて注目していた。当然、安全対策などについて、アフターコロナと言う要素も加わり、危機管理という観点から警備に最大限の配慮が行われた。
- (2) 2019 年 6 月に定めた渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例を最大限に活用した。
- (3) 渋谷区長はハロウィーンに対する方針を明確に打ち出し、9 月 12 日に「渋谷に来ないで」宣言、10 月 5 日に日本外国特派員協会で「渋谷に来ないで」を記者会見、10 月 17 日に「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません」(NO EVENTS FOR HALLOWEEN ON SHIBUYA STREETS) の巨大看板を設置（費用約 4800 万円投入）、10 月 28 日にハチ公像の封印をするなど、段階的にしかも「渋谷に来ないで」を可視化したこと、2019 年を大幅に上回る民間の警備員約 300 人、区職員を約 150 人配置し、更にセンター街を一方通行にするなど、警察と連携し、センター街で人が集中して滞留しないように努めた。
- (4) 上記の (1) ～ (3) の様子が連日インターネットをはじめ、メディアで報道されたことで、かなりの抑止力が働いた。実際に渋谷の来ようとしていた若者達が梨泰院での雑踏事故を意識していかはわからないが、少なくとも (3) についてはかなりのインパクトがあったことは予想できよう。渋谷区の本気が若者にも届いたと言ってよいだろう。

2023 年の対応は渋谷区が全面に出たこと、9 月上旬に方針についてメディアを通して公表し、さらに段階を追って「見える化」したことが大きな成果の要因であった。2024 年及び 2025 年の対応が今後の渋谷ハロウィーン動向を導くことになるのではないだろうか。単に渋谷区長が「渋谷に来ないで」と言うただけではその効果は薄かっただろう。もちろん、渋谷区の経済的な負担といった問題も残されたことも無視できるものではない。

第 2 の「それ以前の流れ」とは 2002 年を起点とする見方と、2013 年を起点とする見方があるのではないかと考えられる。

2002 年を起点とする見方とは 2002 年 6 月 9 日のサッカー・日韓ワールドカップで新横浜国際競技場において行われた対ロシア戦で 1 対 0 で日本は W 杯初勝利となり、W 杯開催国の上、W 杯試合という日本サッカー界の記念すべき日となった。試合終了後、渋谷スク

ランブル交差点で信号が変わる行き交う人がハイタッチを行ったいわゆるハイタッチムーブメントが誕生したことだ。

ハロウィンと同様の「スクランブル交差点でのお祭り」で思い出されるのが、サッカーの日本代表戦である。この行動様式が生まれたのはおそらく2002年の日韓ワールドカップのころからだと思うが、本格的に定着したのは2010年の南アフリカワールドカップあたりからではないだろうか。日本代表がグループリーグ突破を決めたデンマーク戦の直後には早朝から「騒ぎたい人たちが」集合し、お祭り騒ぎを繰り広げた（レジュー 189-190）。

会場が新横浜であったが、渋谷にはスポーツバーなど観戦のできる環境が整い、試合終了後にスクランブル交差点で往来し、そこで起こった現象である。野球などでは起きなかった現象である。ちなみに日本が初めてワールドカップに出場した1998年のフランス大会では3戦全敗であった。試合の内容とスクランブル交差点でのハイタッチムーブメントはある程度リンクしている。2001年にスクランブル交差点前のQフロントの大画面を利用したカウントダウンイベントが行われたことがあるようだが、これは当然仕掛け人がいる（石井 48）。高久舞は2009年～2011年の3年間、渋谷のカウントダウンの調査を行っているが、2009年には自然発生的、突発的なカウントダウンが行われたようだ。2009年の内容を一部引用する。

騒ぎのピークとなるのは23時50分頃からである。ロケット花火をあげた若者がおり、その周りにいた人は火をつける瞬間パニックになって逃げようとするが、ロケット花火が打ちあがった瞬間少し離れた場所にいる人々は、その音で更に歓声をあげて熱気を帯びていく。

カウントダウンは突然始まった。どこからともなく、「20秒前」問う声が聞こえると、小さかった声が段々大きくなり、「3、2、1」という声とともにクラッカーやお酒や水が空中を飛んだ。「ハッピーニューイヤー」と「あけおめ」という声が方々から聞こえ、盛り上がりは最高潮に達する。その直後から、今度は信号が青になるたびに横断者がハイタッチしていくという現象が始まった。ハイタッチの中心になっているのは、やはり外国人という印象である。ハイタッチの横断者たちは毎回ほとんど同じ人物である。つまり、信号が青になるとハイタッチをしながら反対側に渡る。赤になるとハイタッチしながらもと来た方向に戻る、ということを繰り返しているのである（高久 309-310）。

2010年についても外国人が多いとした報告として次のように述べている。

…海外の人達は警察に止められると戸惑ったようにしていたのが印象的であった。ニ

ニューヨークのタイムズスクウェアではお揃いの帽子が配られたり、風船が配られたり、アーティストによるライブが行われたり、主催者のいるカウントダウンイベントがあるが、それと同様に渋谷でもイベントのつもりでやってきている人達も多くいるようである（高久 311）。

2011年の報告の一部も紹介しておきたい。

…警察の抑止力が少なかったことや、フォーエバー21のビルでカウントダウンを行ったもあったせいか、午前0時になったとたんに、警察の規制を飛ばしてスクランブル交差点内に入り込んでしまった（高久 311）。

次に、2010年6月24日のワールドカップ、ベルギー戦では2対0で勝利した翌日午前5時過ぎのレポートの要約を紹介しておきたい。

人々が集まっているのは「あけおめ」のカウントダウンが行われたのと同じスクランブル交差点である。違っているのは、駅へ向かう群集の中にサッカー日本代表の青いレプリカユニフォームを着ている若者が少なからず見られた点である。渋谷駅周辺にはスポーツバーやスポーツカフェが40店舗以上ある。そこでの観戦を終えた人たちが帰路に着くために駅へ向かっていた。渋谷駅は電車の始発の時間を迎えていたので、センター街方面へ向かう人と駅へ向かう青い軍団が交錯する状態になっていた。

その時突然、センター街入り口にたむろっていたユニフォーム姿の若者たちが日本代表チームの応援歌を歌い出した。それをきっかけに、駅方面へ向かっていた通行人、特にユニフォームを着ている人々が、同じように応援歌を合唱しながらハイタッチを始めた（石井 59-60）。

高久舞は「群衆から集団が形成された」（高久 325）とし、群衆の中にはっきりとした集団が行動するとこれが波及的効果をもたらすことがあると指摘している。ワールドカップとスクランブル交差点の特徴はまさに「群衆から集団が形成された」ことにより、偶発的にハイタッチムーブメントが生じ、こうした状況が機会あるごとに再現されていることになる。

群集から集団への形成過程を確認したのは平成24のオリンピックでの勝利の時である。試合が終わった直後の23時過ぎは土曜日であったことも重なり、スクランブル交差点には大勢の人が行き交っていた。普段の土曜日との違いあるとすれば、サッカー日本代表のレプリカユニフォームを着ている人が多くいたことだろう。駅から街中へと向かう人の中にはこのようなユニフォームを着ている人はおらず、駅へと向かうばかりがレ

プリカユニフォームを着用している。渋谷には店内に大画面スクリーンを設置し、飲食をしながらサッカーなどのスポーツ観戦ができる店が増加している。スポーツカフェネット「スポーツカフェ総合情報サイト」(<http://www.spocafe.jp/>)で検索しただけでも、渋谷駅周辺には40店舗以上のスポーツバー、スポーツカフェがある。彼らはこれらのスポーツバーで試合観戦をしていたと考えられ、観戦終了後は帰路に着くため駅へと向かっているようだった(高久 325)。

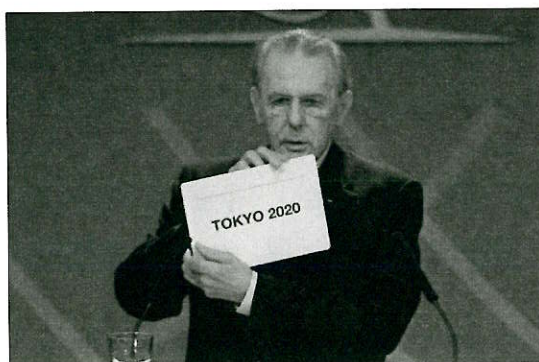
ちなみに「スポーツカフェネット スポーツカフェ総合情報サイト」(<http://www.spocafe.jp/>)を検索(2023年11月26日現在)すると「SPOCAFE / SPORTSBAR 渋谷周辺のスポーツカフェ・スポーツバー」では93店舗がヒットした。「群集から集団への形成過程」とは群集の中に盛り上げ役の集団が入ると、これが波及的効果を生み出すということになる。

集団はそこかしこに形成されていき、青信号になると歩道をハイタッチをしながら反対側へ渡り、また青信号になるとハイタッチをしながら元の場所に戻る行為がなされ始めた。平成24年のオリンピックでは集団ができ歩道でのハイタッチを行ってからおよそ1時間後には騒ぎは収まり、足を留める場から歩行をするための道へと戻っていった(高久 326)。

幾つかある集団の中で応援歌が始まるとこれが伝染する。ハイタッチは最初は特定の人達で始まり、周囲の一部のものがこれに同調する場合もあるだろう。ここまでの人の流れは自然発生的に起きた現象と捉えることができる。

2012年に急激に増えた理由は当然のことながら2011年の東日本大震災後の反動である。これは2020年～2022年のアフタコロナとも重なる部分がある。

なぜ2012年ごろからこういうことが起こったか、現状でまとまった見解というものは存在していないようである。震災後の自粛ムードを経ての反動、ディズニーランドをはじめとするテーマパークからの影響、外国人が多いエリアのタウンイベントからの波及など、レイヤーの異なる流れがたまたまこの年にリンクし、メディアがそういった動きを持ち上げたことで、多くの人に普及していった、というのが概観だと思われる(レジュー 187-188)。



2013年を起点とする見方とは、2013年9月

(22)

7日（日本時間8日）、ブエノスアイレスでの国際オリンピック委員会（IOC）総会で東京2020年夏季オリンピック・パラリンピックの開催決定が発表されたことを一つの契機とみなすことだ。2011年の東日本大震災後、日本の復興の象徴となる国際的な大イベントになるからだ。日本全体が盛り上げる大きな契機としても大きな役割がある。2011年以後、渋谷は再開発が始まり、2012年4月に渋谷ヒカリエがオープン、2013年3月に東急東横線と東京メトロ副都心線との直通運転が開始され、2019年11月に渋谷スクランブルスクエア（東棟）がオープンし、2027年までに大きく変貌する。

こうした中は長谷部健（b.1972）が渋谷区長となった2015年4月より渋谷はこれまでにない動きを見せている。長谷部健はその渋谷区の公式HPの「区長の部屋」によると、次の経歴が掲載されている。

1972年3月 渋谷区神宮前生まれ。株式会社博報堂退職後、NPO法人green birdを設立し、まちをきれいにする活動を展開。原宿・表参道から始まり全国60カ所以上でごみのポイ捨てに関するプロモーション活動を実施。

2003年 渋谷区議会議員（3期12年）

2015年 4月27日から渋谷区長就任（現在3期目）<sup>（23）</sup>

区長自身の経歴を見れば、イベントや若者に係わる機会が多かったという背景は無視できないものがある。長谷部区長が就任してからスクランブル交差点ではカウントダウンが区が主導して始まっている。もちろんこの背景には2013年の東京オリンピック招致の決定があり、渋谷をさらに観光地として高めたいということがあっただろう。

2015年12月31日には渋谷区がスクランブル交差点でカウントダウンイベントを開催した。

渋谷区は平成27年の大晦日、交差点内にステージを設けて新年のカウントダウンを実施した。スクランブル交差点は、大晦日、サッカー・ワールドカップやハロインの際に多くの若者が集まる場所となり、警察が取り締まるまでになっていた。昨年までは年越し前後の4時間、交差点隣接エリ欄で封鎖して人の通行を規制したが、カウントダウン時には数千人の若者らが押し寄せ、交差点周辺はすし詰め状態になった。大騒ぎの末、逮捕者も出るしまつとなった。渋谷区は発想を転換し、平穏な年越しを目指したが、結果的にはさらに大勢が集まることとなった。

平成28年大晦日、午後10時から元日未明にかけて、警視庁はスクランブル交差点や道玄坂を歩行者天国」として歩行者に開放した。Qフロントの大型ビジョンには時刻が大写しに表示されている。年明けが近くなってあちこちで歓声が湧くようになり、零時になって最高潮を迎えた（石井 44）。



2016年も同様にイベントが計画されたが、この時のことについては『朝日新聞』（2016年10月05日 夕刊、11面）に以下のような記事が掲載されている。

渋谷スクランブル交差点、大みそかに開放？ イベント・歩行者天国、区が検討  
大みそかやハロウィーンの際、大勢の若者が集って騒動となる東京・JR渋谷駅前のスクランブル交差点で、渋谷区が今年の12月31日、交差点内でイベントや歩行者天国を実施することを検討している。昨年までは交差点を封鎖していたが混乱が続いたため、逆転の発想で平穏な年越しを目指す。

区関係者への取材でわかった。検討中の計画は2種類で、ひとつは交差点を中心とするエリアで車両・歩行者を規制し、中心部にステージを設定してカウントダウンのイベントを実施するA案。もう一つは、交差点を含むおよそ400メートル四方のエリアで車両を規制し、この範囲を歩行者天国とするB案だ＝図。

A案では、大みそかの午後10時から交差点内に約2千人を収容する観覧エリアを設け、年越しのイベントを開催するという。区は周辺の商店街や交通各社などに案を示し、協議を進めている。

渋谷スクランブル交差点は近年、大みそかやハロウィーン、サッカーワールドカップなどの大規模なイベントの際、若者らが集う象徴的なスポットになっている。

区などは昨年まで、年越し前後の4時間、交差点隣接エリアを柵で封鎖し、人の通行を規制。しかし、カウントダウン時には数千人の若者らが押し寄せ、交差点周辺はすし詰め状態になった。一部が店舗の屋根によじ登ったり爆竹を鳴らしたりし、逮捕者も出た。周辺の商店街組合の関係者は「多くの人が渋谷で楽しんでもらえるのはうれしいが、毎年危険な状態にある」と心配する。コラムニストの泉麻人さんは「若者にとって渋谷のスクランブル交差点はショーの『舞台』のようなもの。訪日外国人の間では『観光地』にもなっている」と言う。

区は今月末のハロウィーンの動向を見据えつつ、大みそかの対策を進める。区の担当者は「あえて開放し、安心安全に年越しを楽しんでもらえるようにしたい」と話している。

（図は省略）

渋谷区は「あえて開放し、安心安全に年越しを楽しんでもらえるようにしたい」とあるように、人を集める方針で進めていた。

2016年は前述のハロウィーンにおける推計市場規模は過去最大となった。以降は減少傾向となる。2016年の渋谷ハロウィーンについて石井は以下のように述べている。

平成28年（2016）の渋谷でハロウィンの様子は、テレビを初めとした多くのメディアで取り上げられ注目を集めることになった。前年の平成27年、渋谷のハロウィンは一気に盛り上がった。仮装をした多くの若者が渋谷に集まり、その結果、予想をはるかに

超える賑わいとなり、果ては騒動にまでいたったのである（石井 62）。

渋谷での仮装には特徴があるのだろうか。

渋谷のハロウィンの仮装は、ディズニー系のかわいいものではなく、ナースやポリス、  
囚人などの仮装をしてゾンビメイクや傷メイクを施した者が多い（石井 65-66）。

また、渋谷ハロウィンのレポートした大久保衣純を紹介し、大久保がその特徴として3  
点を挙げている。

第一に、仮装者は渋谷に仮装をしていくことで非日常性を享受していること

第二に、ハロウィンは大人が仮装楽しむものであるということ

第三に、街全体が祝祭空間として変貌していること

キーワードは仮装にある。渋谷を訪れる仮装者は、観客としてイベントに参加するこ  
とを望んでいるわけではない。自らが仮装して主役となり、渋谷の街を練り歩くことを  
目的にしているように見える。仮装は、自己表出、変身願望といった欲求を叶えるため  
の装置である。そうして仮装を受け入れた象徴的空間が<シブヤ>なのである（石井  
69-71）。

渋谷区が中心となって進めていたカウントダウンイベントも2017年までとなった。こう  
したイベントについては周辺の商店街組合等も心配の声が寄せられたこと、さら  
にはこうしたイベントが少なからずハロウィンの人出にも影響するのではないかという懸  
念は拭いされないだろう。この懸念は2018年のハロウィンの軽トラック横転事件とい  
う形で顕在化する結果となった。渋谷区自体が2017年まではスクランブル交差点を観光  
やイベントの象徴的な役割として活用したということだ。スクランブル交差点は渋谷区が  
そのように力を入れる以前からすでに象徴的な役割を持っていたのでないだろうか。

2018年の軽トラック横転事件はこの渋谷区の方針を180度転換させることになり、2019  
年に渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例を定め、スクランブル交差点  
でのイベントを渋谷区自身が禁止するよう定めたことになる。地元商店街組合、行政、渋  
谷を訪れる人とはそれぞれ思惑が異なるが、安心安全で楽しむための試行錯誤は今後さら  
に続けられることになろう。また、スクランブル交差点やセンター街に注目が集まってい  
るが、渋谷駅東口商店会が主催する「渋谷ハロウィン仮装コンテスト」も実は開催されて  
いる。

始まりは2016年

渋谷駅東口を盛り上げたい！その一心で、行われた第一回の仮装コンテストは、渋谷ク

ロスタワーが会場でした。当時は子ども限定ではなく、大人も参加対象としたコンテスト。いち商店会が主催のイベントにも関わらず、大きな賑わいを見せました。しかし・・・2018年にハロウィンで渋谷に集まった若者がトラックを横転させるという事件が発生。一気に渋谷のハロウィンのイメージは悪くなります。「このままではまずい！」そう思った、渋谷駅東口商店会の佐藤会長を筆頭に心機一転！盛り上げようとした矢先、2020年からコロナが猛威を振ります。それでも続けることが商店会のためになるという志で、写真でのコンテストを開始。さらに、ハロウィンは子どもと一緒に楽しんで欲しいという思いから、2021年から仮装コンテストは子ども向けに変更。様々な困難をアイデアで乗り越え、昨年の応募者は900人を超えるイベントに成長しています<sup>(24)</sup>。

同じ渋谷であっても渋谷駅東口商店会が主催する「渋谷ハロウィン仮装コンテスト」についてはメディアもあまり取り上げていないようだ。メディアの動きも大きな影響があり、今後の動向には注視したいものだ。

#### 4 渋谷ハロウィンにおける新聞記事（2018年&2019年、2023年）

2018年の渋谷ハロウィンはセンター街での軽トラック横転事件によりその緊張が高まった。このため2019年のハロウィンはその対策等が求められたことは言うまでもないことだ。その後2020年から2022年新型コロナウイルス感染症が法令上2類に位置付けられたことから、国民全体に自粛モードが定着し、2023年5月にはその位置付けも2類が5類へと位置付けが変わり、事実上、行動制限のないハロウィンを迎えることになった。これに加えて、2022年の韓国・ソウルでのハロウィンでは梨泰院地区で大惨事が起こり、2023年の渋谷ハロウィンは異常ともいえる程注目度が集まった。以下の表は三大新聞を中心に、10月10日～11月3日までの新聞記事のタイトル、見出しや記事の一部を取り上げた。渋谷ハロウィンについては10月最終の週末から31日が注目されるが、この前にハロウィンについて取り上げられるため、10月10日から秋の叙勲がおこなわれる11月3日とした。ハロウィンが終わってから11月1日に記事が集中する。

ハロウィンに関するおもな記事（抜粋）

新聞名等	2018年	2019年	2023年
『朝日新聞』	<u>2018年10月19日朝刊、第8面</u> ハロウィン市場 変身したい 習慣定着 成長は頭打ち らくらく仮装・赤ちゃん向け... 幅広い層狙う	<u>2019年10月25日夕刊、第13面</u> 若者酔って過激化... 昨年は軽トラ横倒し・窃盗・わいせつで逮捕者 渋谷ハロウィン ノンアル作戦 DJ ポリス出	<u>2023年10月29日朝刊、第27面</u> ハチ公周辺封鎖、「集まらないで」 ハロウィンに備え / 東京都 「ハチ公像周辺は封鎖となります」。31

・「31日のハロウィーンが近づき、オレンジ色の商品が売り場に並ぶなど商戦が熱を帯びている。毎年恒例となってきた半面、市場の成長は頭打ち気味だ。各社は、「本番の日」の前から盛り上がるイベントを工夫するなどして、売り上げを伸ばそうとしている。

ハロウィーンは、米国で10月31日に仮装した子どもが菓子をもらいに回る習慣が定着した。日本でも1990年代後半から若者や子育て世代を中心に盛り上がり、2010年前後からメーカーや小売り各社が商戦を本格化させた。日本記念日協会によると、16年の市場規模の推計は1345億円で、5年で2倍以上に急成長。バレンタインの市場も抜いた。ただ、昨年は前年比3%減の1305億円で、今年も3%減を見込む。

そんな中、各社新たな需要を開拓しようと知恵をしばり出している。」

2018年10月27日夕刊、第7面

ハロウィーン身構える渋谷 ごみ清掃・DJ ポリス・酒瓶の自粛要請...

・「地元商店街などでつくる「ハロウィ

動 道路封鎖も

・「区は今年6月、ハロウィーンやその前の週末、年末年始などに、渋谷駅周辺の路上や公園で飲酒したり、大音量で騒いだりすることを禁じる条例を制定。民間警備員の配置や仮設トイレの設置などに約1億3000万円の予算を組んだ。」

・「条例の制定を区に要請してきた渋谷センター商店街振興組合の小野寿幸理事長は、「条例ができたことは喜ばしいが、こんなに税金を使うと思うとやりきれない。もし去年のような事件が起きたら、来年以降はセンター街を封鎖すべきだ」という声が高まるだろう」と話した。

2019年10月28日朝刊、第25面

ハロウィーン禁酒条例効果は 渋谷の街静か「理由わかる」 ゴミの量が半減「よかった」

・「渋谷区の条例は、今年、10月25日～27日、31日の午後6時～翌朝5時まで「27日は翌午前0時まで」、スクランブル交差点やセンター街周辺を路上飲酒禁止の対象エリアとした。区はこの区域にある41店舗に酒類の販売の自粛を求め、おおむね協

日のハロウィーンを控え、渋谷区は28日午前、渋谷駅前のハチ公像を白い布で覆い、周りもシートで囲って近づけないようにした。

渋谷区内は毎年、ハロウィーンに大勢の人が集まる。路上飲酒や大量のゴミ放置に加えて、今年は外国人観光客の増加もあり、雑踏事故の危険が高まったと区はみている。このため、9月上旬から「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません」とメッセージを発し、31日や直前の週末などにハロウィーン目的で渋谷に来ないように呼びかけていた。

ただ、囲いができた後、ハチ公像を一目見ようと、シートの隙間からのぞき込む外国人観光客も見られた。

2023年10月30日朝刊、第25面

【名古屋】

「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません 渋谷区」

仮装した若者らの振る舞いが年々問題となり、2016年以降、区が更衣室やトイレを置くなどしてトラブル回避に努めてきた。しかし、18年に、暴徒化した集団に軽トラックが横

ン」ごみゼロ大作戦 in 渋谷」は3年前から、周辺施設を汚さないための対策をしてきた。今年も、土曜日の27日から週明けの11月1日早朝、ボランティアによる清掃を行う。

一方、仮設トイレや更衣室、ごみを回収するエコステーションの設置は、「ハロウィーンは31日に楽しむもの」(担当者)だからだ。当日は楽天が運営するフリマアプリ「ラクマ」が協賛。路上に捨てられることも多かった衣装などを回収して販売し、売り上げを美化活動の費用などに充てる。

・「区はハロウィーンに合わせて今回初めて、周辺のコンビニエンスストアなど計7店舗に、31日午後6時から翌1日午前0時まで、瓶に入った酒類の販売を自粛するように要請した。」

#### 2018年10月29日朝刊、第35面

ハロウィーン荒れる渋谷 軽トラ横転させる・暴行や盗撮疑い

・「ハロウィーン直前の週末になった27日深夜から28日未明にかけて、東京・渋谷では仮装した人たちが集まり、軽トラックが横転させられるなどトラブルが相次

力を得られたという。」

・「渋谷区によると、金曜夜から日曜早朝にかけて、区職員が路上飲酒禁止などを指導した件数は20件、38人。目立ったトラブルはなかったという。区では例年人出が一番多い31日に、警備員を140人程度まで増やすことを検討している。」

#### 2019年11月2日朝刊、第27面

渋谷ハロウィーン条例後本番 大きなトラブルなし 酔っ払い・ゴミ・けんか減った

・「今年のハロウィーンが終わった。トラブル防止のため、渋谷駅周辺の公園や路上での飲酒を禁止する区の条例が施行されて初めて迎えた本番に、区は啓発や警備に1億円以上を投じたほか、警視庁も厳戒態勢で臨んだ。区によると、条例を知らない外国人が飲酒したり、深夜に大音量で音楽を流す車が集まったりはしたものの、大きなトラブルはなかったという。」

・同庁幹部は「昨年の軽トラックが横転させられたような事件が繰り返されぬよう、最大限の警戒ができた」。重久真

転させられる事件が起き、ついに「来訪抑止」に転じた。

今や地元商店街から「ハロウィーンはメリットが全くない」と言われるほど。区は、対象の時期と場所を定めた路上禁酒条例を19年に施行し、今回も一部の繁華街が路上飲酒禁止となった。

ただ、「路上飲み」は日常化しており、同区はトラブル防止のために毎夜、繁華街のパトロールを実施している。「このままハロウィーン当日を迎えるのがとても心配。少しでも減ってほしい」(担当者)と悲鳴を上げる状況だ。

#### 2023年10月30日朝刊、第25面

ハロウィーン、集まらないで 警固公園の周辺に柵、「来訪抑止」の自治体も【西部】

新型コロナの「5類移行」後で初となる31日のハロウィーンは、各地で例年以上の警戒ムードとなりそうだ。昨年の韓国の雑踏事故の記憶も新しい上に、路上飲酒やゴミ放置の問題が毎年深刻に。ついに、「来ないで」と自治体が呼びかける事態となった。

外国人観光客にも人気の渋谷駅前のス

	<p>いだ。</p> <p>渋谷署によると、28日午前1時ごろ、渋谷区宇田川町の「センター街」の路上で、人混みで前にすすめなくなった軽トラックの荷台に複数の人が乗って踊り、車を持ち上げて横転させた。</p> <p>・「ハロウィーンでは近年、ごみの放置や参加者同士のトラブルが続いていたことから、渋谷区は今回、瓶に入った酒類の販売自粛を呼びかけるなど対策を強化。本来のハロウィーン当日である31日にマナーを守って楽しむように呼びかけていた。</p> <p><u>2018年11月1日朝刊、第1面</u>  警備もスクランブル（詳細は31面記事）  「ハロウィーン本番の31日夜、東京・渋谷駅周辺には大勢の人が集まり、警視庁が厳戒態勢を敷く中、スクランブル交差点を行き交った」  ハロウィーン 渋谷 厳戒 交差点数百人で警備 痴漢容疑など2人逮捕  スクランブル交差点付近では、警視庁の機動隊員数百人規模で待機。「JD ポリス」が車上から歩行者を誘導したほか、午後7時前からは人</p>	<p>毅・警備1課長は区  の取り組みについて  「路上飲酒が少なくな  ってトラブル防止  の観点からよかつた。  外国人が増えて言葉が通じない場面  もあったので、今後の  課題としたい」と  している。」</p>	<p>スクランブル交差点  に、異色の特大看板  が登場した。</p> <p>「渋谷はハロウィ  ーンイベントの会場  ではありません 渋谷  区」</p> <p>仮装した若者らの  振る舞いが年々問題  となり、2016年以  降、区が更衣室やト  イレを置くなどして  トラブル回避に努め  てきた。しかし、18  年に、暴徒化した集  団に軽トラックが横  転させられる事件が  起き、ついに「来訪  抑止」に転じた。</p> <p>今や地元商店街から  「ハロウィーンは  メリットが全くな  い」と言われるほ  ど。区は、対象の時  期と場所を定めた路  上禁酒条例を19年  に施行し、今回も一  部の繁華街が路上飲  酒禁止となった。</p> <p>ただ、「路上飲み」  は日常化しており、  同区はトラブル防止  のために毎夜、繁華  街のパトロールを実  施している。</p> <p>・渋谷区は1日、前  夜のハロウィーン当  日のピーク時に繁華  街に集まった人が、  昨年より8千人  (35%)少ない1万  5千人にとどまった  と発表した。</p> <p>迷惑となる路上飲  酒やゴミ放置などの  問題を抑えるため、  区は例年以上に「ハ</p>
--	---	---	--

混みを分散させるため、交差点につながる文化村通りと道玄坂の一带を車両通行止めにした。」

2018年11月2日朝刊、第33面

集う若者 大荒れ渋谷ハロウィーン

・「立ち上げから関わる「チッタエンタテインメントの土岐一利・常務取締役プロモーション本部長は、川崎は地域活性化のため、組織でイベントを運営しているといい、渋谷は自然発生的なのが一因では、とみる。」

・長谷部区長 「過激化の心理については「仮面や仮装で誰か分からない状態に心が大きくなってしまって不法行為が増えた」とみる。来年は顔認証のテクノロジーを活用して参加を有料制にすることやパレード形式、代々木公園への誘導などを検討しているという。」

・「コラムニストの堀井憲一郎さん(60)は、「区長が言うことはわかるが、とても残念」と話す。「自然発生した若者中心の祭りを大人たちは把握し、管理したいと思っていたところに、先週末トラックが横転させられる事件が起きてしまった」。堀井さんが調べ

ロウィーン目的で渋谷に来ないで」と呼びかけており、こうした取り組みの効果で来訪者が減ったという認識を示した。長谷部健区長は1日午前に報道陣の取材に応じ、「おおむね区の発信にご理解をいただき、渋谷としては静かなハロウィーンだった」と振り返った。

区によると、10月31日のピーク時(午後10時)に渋谷センター街周辺に集まった人数を確認した。昨年のピークだった午後11時より大きく減り、19年(最大4万人)の半分以下だった。区が呼びかけた酒類販売自粛に応じた店舗も昨年より増えたという。

一方、区の対策費は当初の確保額より4千万円多い8800万円に上った。1億円超となった19年に次ぐ規模だという。区が回収したゴミの量は昨年より500キロ少ない3700キロにとどまった。長谷部区長は「ほっとはしているがこれで解決とは思っていない。来年も公道がハロウィーン会場ではないという発信は続けていきたい」と話した。

2023年10月31日朝刊、第19面

(東京インサイド)

	<p>たところ、60 年以上前にはクリスマスイブに若者らが騒ぎ、問題となっていた。」</p>		<p>警備強化 今夜、渋谷どうなる 行動制限緩和後、初のハロウィーン／東京都</p> <p>「ハロウィーンの象徴」のように言われてきた渋谷の街が 31 日、当日を迎える。10 年ほど前からごみ放置などの問題が起き、渋谷区は今回、来ないように呼びかけた。新型コロナの行動制限が緩和されて初めての当日はどうなるか。</p> <p>「注意」「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません」。渋谷駅前のスクランブル交差点に 10 月中旬、特大サイズの看板が設置された。看板には大きな「×」の文字がある。</p> <p>直前の土曜日の 10 月 28 日はスクランブル交差点を中心に警備体制が敷かれ、英語で語りかける「DJ ポリス」も登場した。センター街は一方通行に整理された。仮装した人は少なく、目立った混乱はなかった。</p> <p>区は 2019 年制定の条例に基づき 31 日も、午後 6 時から翌午前 5 時まで駅周辺の一部地域での路上飲酒を禁止する。禁止エリア周辺にある 38 店に対し、アルコール販売自粛も要請</p>
--	--	--	--



		<p>する。</p> <p>区は昨年比約 1・5 倍の警備員約 300 人、同 2 倍以上となる約 150 人の区職員を配置する。警視庁は例年、「DJ ポリス」を配置したり、歩行者を誘導したり、一部で車両を通行止めにしたりにしている。</p> <p>■商店街「悪夢の一日」</p> <p>「悪夢の一日」。渋谷センター商店街振興組合理事長で、会社役員の鈴木達治さん(59)は 31 日を前に、深いため息をつく。</p> <p>センター街の怖いイメージを払拭(ふっしょく)しようと 03 年に「パトロール隊」を結成。違法看板を撤去し、違法駐車や客引き、無許可露天商を通報し、路上にたむろする若者へ声をかける。地道な活動を続けてきた。「364 日活動しても、1 日で台無しにされてしまう」</p> <p>ハロウィーンの前後に仮装した人たちが集まり始めたのは 10 年ごろ。当初は「遊んでいってもらえれば」との思いがあった。だが 14 年ごろには、センター街周辺が歩けないほどの混雑になった。</p> <p>センター街の店は従業員が出退勤できなくなった。着替え</p>
--	--	--

		<p>やメイクで店のトイレに居座られ、酒に酔って店内で暴れて設備が壊された。路上で大勢が座り込んで飲酒し、嘔吐（おうと）や放尿を放置して去っていった。</p> <p>多くの店で当日夜の営業ができなくなった。にもかかわらず、店周辺の掃除は店側が担わざるを得ない。鈴木さんは「商売上のメリットが全くない」と話す。</p> <p>渋谷駅周辺では「100年に1度」と言われる再開発が進み、街はきれいになるが、ハロウィーンは「手に負えない」と感じるという。「本当は『来るな』なんて言いたくない。でも、モラルに訴えてルールを守ってもらえるような状態ではない。強く反対しないとブレーキがきかない状態になっている」（比嘉展玖）</p> <p>■若者も訪日客も... 路上飲みは常にパトロールに記者同行</p> <p>渋谷ではハロウィーン前後だけでなく、「路上飲み」が問題になっている。渋谷区は9月から、毎日午後8時から翌朝5時まで「パトロール」を実施している。10月中旬の金曜日、記者が同行した。</p> <p>パトロールするの</p>
--	--	--

		<p>は区から委託を受けた警備会社で、1グループは警備員6人と隊長1人からなる。</p> <p>一行は、センター街の宇田川交番前のコンビニに到着した。路上飲みが起きやすい地点は決まっており、その一つという。</p> <p>20人ほどが酒を飲んだり、たばこを吸ったりしていた。警備員が声をかけると、大半は理解を示す。会社員の男性(27)は「これから友達と待ち合わせなんで飲んでいただけ」と言った。</p> <p>警備員は海外からの旅行者にも声をかけた。フランスからという男性(25)は「外の方が涼しいしお酒も安い。始発まで飲むつもり」。フランスでは外で飲むことはないと言う。</p> <p>子ども2人を連れて観光で来ていた英国人のイアン・リッグさん(42)は「こんなに都会の真ん中で飲んでいるとは思っていなかった」と驚く。</p> <p>この日、終電近くまで路上飲みの人が減る様子にはなかった。区安全対策課の東浦幸生課長は「とても区職員だけでは対応できない。少しでも渋谷から路上飲みが減ってほしい」</p>
--	--	--

			<p>と話す。</p> <p><u>2023年11月1日朝刊、第21面</u></p> <p>新型コロナの「5類移行」後では初のハロウィーンとなった31日、例年、仮装した多くの人らでにぎわう渋谷駅前は、昨年以上の警戒態勢となった。</p> <p>迷惑となる路上飲酒やゴミ放置に加えて、雑踏事故の恐れもあるとして、渋谷区は今回、例年以上に「ハロウィーン目的で渋谷に来ないで」と呼びかけた。</p> <p>区の要請に応じたJR東日本は、渋谷駅ハチ公口のシャッターを一部閉鎖。渋谷センター街は中央に仕切りが設置され、警察官が右側通行を呼びかけた。区も、事故警戒の警備員を前年より25人多い125人態勢に。区職員約30人もゴミを拾いながらマナー順守を呼びかけて回った。</p> <p>区は28日と31日に、渋谷駅周辺の店へ酒類販売自粛を呼びかけた。直前期間は路上飲みが減ったという。31日は仮装をした人も多かったが、路上飲みは少なかった。</p> <p><u>2023年11月日朝刊、第19面</u></p>
--	--	--	--

		<p>渋谷区は1日、前夜のハロウィーン当日のピーク時に繁華街に集まった人が、昨年より8千人(35%)少ない1万5千人にとどまったと発表した。</p> <p>迷惑となる路上飲酒やゴミ放置などの問題を抑えるため、区は例年以上に「ハロウィーン目的で渋谷に来ないで」と呼びかけており、こうした取り組みの効果で来訪者が減ったという認識を示した。</p> <p>長谷部健区長は1日午前には報道陣の取材に応じ、「おおむね区の発信にご理解をいただき、渋谷としては静かなハロウィーンだった」と振り返った。</p> <p>区によると、10月31日のピーク時(午後10時)に渋谷センター街周辺に集まった人数を確認した。昨年のピークだった午後11時より大きく減り、19年(最大4万人)の半分以下だった。区が呼びかけた酒類販売自粛に応じた店舗も昨年より増えたという。</p> <p>一方、区の対策費は当初の確保額より4千万円多い8800万円に上った。1億円超となった19年に次ぐ規模だという。区が回収したゴミの量は昨年より500キロ少ない3700キロにと</p>
--	--	--

			どまった。長谷部区長は「ほっとはしているがこれで解決とは思っていない。来年も公道がハロウィーン会場ではないという発信は続けていきたい」と話した。
『読売新聞』	<p><u>2018年10月18日夕刊、第10面</u>          渋谷区「瓶のお酒販売 自粛して」 ハロウィーン対策 東京</p> <p>◆割れて「けが」「パンク」防止</p> <p>10月31日のハロウィーンに向け、東京都渋谷区は、渋谷駅周辺のコンビニなど酒類を扱う店舗に対し、瓶に入った酒の販売を自粛するよう初めて求める。</p> <p>ハロウィーン前後の数日間は例年、渋谷駅前のスクランブル交差点に仮装した若者らが集まり、大混雑となる。区によると、酔った勢いで酒瓶が割られることも多いといい、けが人の発生や車のタイヤパンクなどを防ぐため、瓶に限り販売自粛を求めることにした。</p> <p>また、仮装した人たちが夜通し街を練り歩くことで、ごみが散乱し、飲食店の看板が壊されるなどの迷惑行為も相次いでいるという。こうしたことから、区は、終電までに帰宅するよう、SNS など</p>	<p><u>2019年10月31日朝刊、第27面、都民</u>          「きれいなハロウィーンに」 渋谷の児童 騒乱解決策 区長に提出</p> <p>・31日のハロウィーンを前に、渋谷区立幡代小学校の6年生90人が渋谷駅周辺で昨年秋に起きた騒乱の解決策を意見文としてまとめ、長谷部健区長に提出した。</p> <p>「大人の勝手な行動で自分たちの街のイメージが悪くなるのは困る」といった意見も寄せられ、長谷部区長は「今後の施策の参考にしたい」と応じた。</p> <p>提出したのは28日。児童たちは、国語と総合的な学習の時間を活用し、4月から週1、2時間のペースで学習を進めてきた。</p> <p>昨年秋のハロウィーンでは、酒に酔って路上の軽トラックを横転させるなどして計27人</p>	<p><u>2023年10月20日夕刊、第9面</u>          ハロウィーン渋谷ピリピリ コロナ一段落、訪日客回復</p> <p>・「会見は9月にも国内の報道機関向けに行われたが、ハロウィーン目的で渋谷に集まる訪日外国人も多いため、地方自治体としては異例の海外発信に踏み切った。各国の特派員の関心は高く、渋谷区によると、来街自粛のニュースは今月10日時点で、米CNNなど26か国のメディアで配信された。</p> <p>きっかけは、昨年10月に韓国・ソウルの繁華街・梨泰院で約160人が圧死した雑踏事故だ。渋谷ハロウィーンもピークの2019年には一晩に約4万人が押し寄せ、身動きがとれないほどだった。」</p> <p>・「今年は新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行し、渋谷を訪れる訪日外国人数は回復している。長谷部区長は「今年は6万人が集まる懸念がある。昨年まだとは比べものにならない人混みが</p>

を通じて呼びかけることも決めた。

長谷部健区長は「街がにぎわうのはうれしいが、安全も確保しなければならない」と話している。

#### 2018年10月29日朝刊、第31面

ハロウィーン 渋谷の乱 軽トラ取り囲み横倒し

・31日のハロウィーンを前に、東京・渋谷には週末の27日夜から28日未明にかけて、仮装した若者らが集まった。暴行や痴漢の容疑で計5人が警視庁に逮捕されたほか、車が横倒しにされるなど繁華街は一時騒然とした。

渋谷署幹部によると、東京都渋谷区道玄坂の路上などで、周囲の人に殴る蹴るの暴行を加えた202～50歳代の男3人を暴行容疑で逮捕。女性の体を触ったり、スカート内を盗撮したりした男2人を都迷惑防止条例違反容疑でそれぞれ現行犯逮捕した。

同区宇田川町の渋谷センター街では28日午前1時過ぎ、群衆の混雑によって路上に立ち往生した軽トラックが複数人に取り囲まれ、横転させられた。運転手は横転の直前、車外に逃げ出し、けがは

が逮捕された。児童たちは報道やSNSの投稿を見ただけでなく、渋谷駅員や警察官らへのインタビューや、渋谷センター街近くの小学校の児童を対象にしたアンケート調査なども実施してきた。

同校によると、学習が進むにつれ、児童から「子供は学校や地域のルールを守っているのに、大人はなぜルールを破るのか」との疑問が噴出したという。「渋谷センター街だけでなく、代々木公園など集結場所を分散させる」「路上にアルミ板を敷いて空き缶をポイ捨てしたら音が鳴って目立つようにする」といった具体的な解決策が示され、各自で意見文を書き上げた。

「ゴミを捨てる」と音楽が流れる『捨てたくなる楽しいゴミ箱』を置くよう提案した山田望愛（のあ）さん（11）は「(昨年秋の騒ぎは)お酒の影響と集団心理によるものだと思う。興味を持ってもらえるゴミ箱の設置が必要だ」と

予想され、雑踏事故やトラブルが懸念される」と強い危機感を示した。」

#### 2023年10月26日夕刊、第11面

渋谷DJポリス複数配置へ

・「警視庁は今回、人が滞留しないようマイクで誘導する「DJポリス」を複数配置するほか、センター街では状況に応じて左側通行を呼びかける。訪日客が来ることも見込に、英語や中国語、韓国語などもスピーカーを通じて注意を呼びかける。

コロナ禍前の2019年は一晩で約4万人が押し寄せ、身動きが難しい状況が見られた。渋谷区は「渋谷はハロウィーンイベント会場ではない」と呼びかけているがSNSでは「渋谷に練り出そう」といった投稿も目立つ。

警視庁幹部は「どれくらいの人が集まるかは未知数であり、万全の体制をとる」としている。」

#### 2023年10月29日朝刊、第27面

ハロウィーン渋谷厳戒 ハチ公封鎖「仮装の人、全然いない」

・「IT企業「アグープ」がスマートフォンの位置情報を利用

	<p>なかった。渋谷署が器物損壊容疑で捜査している。</p> <p>横転事件を目撃した「ゆうメンタルクリニック」(東京)のゆうきゆう総院長によると、渋谷センター街に入ってきた軽トラックが約100人に取り囲まれ、一部の若者らが荷台などに上がって騒いだ。その後、路上にいた若者らが車体を大きく揺らし始め、ついに車は横倒しになったという。</p> <p>トラックは駆け付けた警察官が群衆の外に誘導した。総院長は取材に「まさに暴徒のようだった」とコメントした。</p> <p>警視庁は31日まで、渋谷駅周辺に機動隊員ら数百人を配置し、警戒を続ける。</p> <p><b>2018年10月31日朝刊、第30面</b> ハロウィーン本番 厳戒 きょう渋谷機動隊増員や交通規制</p> <p>・東京・渋谷で先週末、ハロウィーンで仮装した若者らが車を横倒しにするなど大きな混乱が起きたことを受け、警視庁はハロウィーン当日の31日、渋谷の警備態勢を大幅に強化することを決めた。多数の機動隊を待機させるほか、混雑状況</p>	<p>訴えた。米倉心晴(こはる)さん(12)は「渋谷は自分が生まれ育った場所で、『汚い』とは言われたくない。今年はきれいなハロウィーンにしてほしい」と呼びかけた。</p> <p><b>2019年10月25日朝刊、第29面 都民</b> ハロウィーン警備100人超 渋谷区26、31日 マナー啓発、混雑緩和</p> <p>◆路上飲酒きょうから禁止</p> <p>渋谷区で昨年秋、ハロウィーンが騒乱状態になった問題を受け、区は24日、週末の26日とハロウィーン当日の31日に警備員を各日100人以上動員すると発表した。警備員は防犯カメラの付いた監視台からマナー向上などを呼びかけ、トラブル防止に努める。警視庁も26日から機動隊員らを配置し、警戒を行う。</p> <p>長谷部健区長が24日の記者会見で明らかにした。区が補正予算で対策に投じるのは約1億円で、警備費が9割を占める。警備員は26日に112</p>	<p>して出したデータ(速報値)によると、駅周辺(半径500メートル)の27日午後9時～11時台の人出は、今年のハロウィーン前の金曜日と比べて約1割増にとどまった。」</p>
--	--	--	---



に応じて交通規制を行うなど厳戒態勢を敷く。

渋谷駅前のスクランブル交差点では30日夜、制服姿の警察官数十人が数メートル間隔で配置されていた。軽妙な語り口で話題になった機動隊の「DJ ポリス」も出動し、通行人に「殴られたり、体を触られたりする被害が発生しています。気をつけてください」と呼びかけた。

渋谷センター街でも、多数の制服姿の警察官が巡回し、「見せる警備」を展開していた。仕事終わりに通りかかった品川区の会社員山下はる菜さん(28)は、「警察官が多くて驚いた。きちんと警備してくれれば、ハロウィーンで街が盛り上がるのは良いことだと思う」と話した。

当日の31日は、待機の機動隊員を増やすほか、状況に応じて、道路の一部を車両通行止めにする交通規制も行う。人が集まるソフトターゲットを狙ったテロに備え、緊急時対応部隊(ERT)も都内で待機する。

渋谷センター商店街振興組合などによると、渋谷駅周辺では2013年頃から、ハロウィーンの時期に仮装した若者らが集

人、31日に最大140人配置され、監視台から拡声機で呼びかけ、混雑緩和にも注力する。

昨年ハロウィーンでは若者ら約31万人が渋谷を訪れ、酒に酔って路上の軽トラックを横転させるなどして計27人が逮捕された。区は今年6月、ハロウィーンなどの期間限定で、渋谷駅周辺の公共の場所での飲酒を禁止し、事業者には酒類販売の自粛を求める条例を制定。今年10月25～27日と31日～11月1日、対象地域の路上や公園での飲酒が禁止される。また、酒類販売の自粛を求める期間を10月26日と31日の午後6時～翌日午前5時としている。

長谷部区長はこの日、「世界に誇れるハロウィーンにしてほしい。条例はいつかなくしたい」と述べた。対象地域では期間中、区職員が3人1組で巡回。路上飲酒をする人や酒類販売を確認した場合は指導する。31日には仮設トイレを4か所に計60

結し、大騒ぎをするようになった。その様子が SNS やテレビを通じて広まり、混乱に拍車がかかったという。

14 年には逮捕者も出るようになり、警視庁は本格的な警備に乗り出した。

今年も数百人態勢で雑踏警備にあたったが、人数が手薄になった 27 日深夜から 28 日未明にかけ、混乱が発生。けんかや痴漢で 5 人が逮捕されたほか、渋谷センター街では人混みで立ち往生した軽トラックが横倒しにされた。

警視庁幹部は「違法行為があれば、厳正に対処する。マナーを守ってイベントを楽しんでほしい」と話した。

#### 2018 年 10 月 31 日朝刊、第 3 面

〔社説〕ハロウィーン 不心得者の騒ぎは目に余る 悪ふざけにも、程がある。騒ぎが相次げば、せっかくのイベントも社会から敬遠される。

31 日のハロウィーンを控えた先週末の夜、東京・渋谷の繁華街に仮装した若者らが集まり、大混乱となった。

周囲の人に殴る蹴るの暴行を加える。

基設置する。

一方、警視庁も渋谷センター街やその周辺で、警察官が制服姿で巡回して「見せる警備」を行うほか、軽妙な語り口で群衆を誘導する「DJ ポリス」も出動する予定。今年も多くの人出があった場合は、「車両突入テロ」を防ぐために車止めの資機材を並べたり、違法なドローンを捕獲する専門部隊を配置したりすることも検討している。

◆条例罰則なし  
不安感

多くの人が仮装を楽しむ一方、悪質な事件も相次いできた渋谷のハロウィーン。条例に罰則はなく、不安を募らせる人は多い。

道玄坂の「バー銀座パノラマ渋谷店」は、28～31 日の 4 日間の休業を決定。2 年前からハロウィーンの時期になると客足が遠のき、1 日数人の日もあった。オーナーの榎本聖之（きよゆき）さん（44）は「渋谷のハロウィーンは危ないと認知されていて、思い切って休むこと

女性の体を触り、盗撮に及ぶ者もいた。立ち往生した軽トラックは、若者らに横転させられた。目撃者は「まさに暴徒のようだった」と語っている。

酒に酔った上に、仮装で気分が高揚したのだろうか。それにしても、傍若無人な振る舞いが目に余る。渋谷区長が「大変憤りを感じる。到底許せるものではない」と非難したのは、もつともだ。

警視庁は、暴行や痴漢の容疑で5人を逮捕した。犯罪行為に厳しく臨むのは当然である。

ハロウィーンは、欧州に住んでいた古代ケルト人が、死者を迎えるために執り行った宗教的儀式が起源とされる。米国では、仮装した子供たちが近所を回ってお菓子をもらう習慣がある。

日本でも数年前から急速に広がり、全国各地で仮装イベントなどが開かれている。日本記念日協会によると、カボチャグッズの売り上げなどによる今年の推計市場規模は、バレンタインデーに迫る約1240億円に達する。

盛り上がりとともに

にした」と語る。

酒類販売の自粛を決めた「MEGAドン・キホーテ渋谷本店」は、金属ネットで酒売り場を塞ぐ。長谷部洋平店長（38）は「安心して遊びに行ける渋谷のハロウィーンを作りたい」と話す。

渋谷センター商店街振興組合の小野寿幸理事長（78）は「去年は看板やガラスを壊された店がたくさんあり、みんな怒り心頭だった。今年は警察と連携し、警備をしっかりとってもらいたい」と話した。

2019年10月27日  
朝刊第37面

ハロウィーン  
渋谷「お酒なくても楽しい」

・31日のハロウィーンを前に、東京・渋谷駅周辺には26日夜、アニメキャラクターやゾンビなどに扮（ふん）した大勢の若者らが集まった。昨年、若者に車がひっくり返されるなど騒乱が起きたことを受け、渋谷区は対象地域での路上飲酒を禁じ、酒の販売の自粛を求める条例を6月

に、迷惑行為が目立つようになったのは残念だ。路上に大量のゴミが散乱する。着替えのために駅や商業施設のトイレが占拠される。夜通し騒ぐトラブルも後を絶たない。

渋谷区は今年、駅周辺のコンビニエンスストアなどに対し、瓶入りの酒類の販売自粛を要請した。割れた瓶によるけがや車のパンクを防ぐためにはやむを得まい。

混乱を避けるため、周辺の商店の中には、早めに店を閉じるところもあるという。治安上、近隣住民にも迷惑が及んでいる。

無論、ルールを守って楽しむ若者や親子連れは多いだろう。地方では、町おこしや商業施設の集客に一役買っている側面もある。

一部の不心得者が、健全なイベントとしての定着を妨げていると言えるのではないか。

渋谷では、ゴミの分別や、ボランティアの清掃活動を支援する「ハロウィンごみゼロ大作戦 in 渋谷」が4年目を迎えた。こうした取り組みを広げたい。

警視庁は 31 日ま

に制定した。この日は警察官や警備員が厳戒態勢にあたり、路上飲酒する人たちを注意して回った。

「今年は警察官の数が多くて驚いた」。26 日夕、アニメ「銀魂（ぎんたま）」の主人公に仮装して渋谷を訪れた東京都世田谷区の会社員中山智貴さん（27）は話した。

昨年ハロウィンでは酒に酔って軽トラックを横転させるなどして計 27 人が逮捕。このため、渋谷区は今年、10月25～27日と31日～11月1日に路上飲酒を禁止し、10月26日と31日の午後6時～翌日午前5時を酒類販売の自粛期間とした。

中山さんは「最初は飲酒の禁止でつまらないと思ったが、お酒が飲めなくても楽しい」と渋谷センター街を練り歩いた。ただ、路上には缶酎ハイを飲む若者らの姿も。3人1組で巡回する区職員が「路上でお酒を飲むのは条例違反。ゴミ箱に捨てて」と注意を促した。

で、渋谷駅周辺に機  
動隊員ら数百人を配  
置し、厳戒態勢を敷  
くという。

マナーを守って、  
楽しいハロウィーン  
の一日にしたい。

2018年11月1日朝  
刊、第33面

渋谷 人波ゾクゾク  
逮捕者も

・ハロウィーンの31  
日、東京・渋谷駅周  
辺は仮装した大勢の  
人たちでごった返し  
た。

今年は「本番」前  
の27日夜から28日  
未明にかけ、若者ら  
が車を横倒しにする  
などの混乱が相次  
ぎ、31日も警視庁の  
機動隊員らが警戒に  
あたった。

駅前のスクランブル  
交差点付近は午後  
7時頃までに仮装姿  
の人らで埋め尽くさ  
れ、同庁は交差点周  
辺で車を通行止め  
にし、車道を歩行者  
に開放する規制を  
実施。渋谷署は、仮  
装した女性に対する  
痴漢行為や警察官  
への暴力で男2人  
を現行犯逮捕した。

アニメキャラクター  
の衣装を着ていた  
東京都立川市の大学  
3年泉田智勇（ちよ  
ん）さん（21）は  
「今年は特に人が多  
く、駅前には前  
に進めないほどだ  
った」と驚いてい  
た。

渋谷駅の周辺に  
は26日夜、防犯カ  
メラが付いた監視  
台が25台設置され  
た。警備員が台の  
上から「車道に出  
ないで」などと拡  
声機で注意を呼び  
かけ、「路上で飲  
酒、喫煙、座り込  
みをしてはいけま  
せん」という日本  
語と英語の音声  
が流れた。警視  
庁も機動隊員の  
「DJポリス」ら  
を配置した。

「MEGA ドン・  
キホーテ渋谷本  
店」やコンビニ  
店の大半は、酒  
の陳列コーナー  
をブルーシート  
で覆うなどして  
販売を自粛。渋  
谷区道玄坂の  
「富士屋酒店」  
の清水良一社長  
（85）は「『売ら  
ない』と断ったら  
殴られるかもしれ  
ないし、怖い」と  
語り、店じまい  
を2時間繰り上  
げて午後6時に  
閉めた。

2019年10月28日  
朝刊、第27面

ハロウィーン  
混乱少なく 渋谷  
路上飲酒禁止 一  
定の効果＝  
ハロウィーン前  
の週末にあたる  
26日夜から27  
日未明にかけ、  
渋谷区の渋谷  
駅周辺には多く

一方、夕方には近くの渋谷センター街にある飲食店などが入った雑居ビルで火災が起き、排気ダクトなどを焼いた。当時ビルには約 50 人がいたが、避難した。

2018 年 11 月 1 日夕刊、第 11 面

ハロウィーン 市場規模 バレンタイン並み

日本にハロウィーンが入ったのは 1970 年代頃。83 年には東京・表参道の玩具・雑貨店「キデイランド原宿店」が国内初といわれる仮装パレードを実施した。97 年に東京ディズニーランドで来場者の仮装パレードが行われて知名度は広がり、川崎市でも国内最大級のイベント「カワサキ ハロウィーン」が始まった。

2000 年代に入ると、菓子メーカーなどが菓子の詰め合わせ「ハロウィーンパッケージ」を相次いで導入するなど、世代を超えて浸透した。一般社団法人「日本記念日協会」の推計では、国内の市場規模は 12 年の約 805 億円から急速に拡大し、今年は約 1240 億円。2 月のバレンタインデーや

の人たちが集まったが、同区などによると、目立った混乱はなかった。

区では、路上飲酒の禁止や警備員配置といった対策に一定の効果があったとみている。小原純哉・区安全対策課長は「多くの事業者が酒類販売を自粛してくれた。今後、(飲酒禁止などを呼びかける) 拡声機の音量が小さいなどの課題を見直したい」と話した。

27 日早朝には、ボランティアらが街頭でゴミ拾いをする姿が見られた。たばこの吸い殻などを拾っていた品川区の自営業金元勇二さん(34)は「ゴミは昨年の 2 割ぐらい。路上飲酒禁止に意味があるか疑問だったが、すごい効果だ」と語った。

渋谷区の対象地域では、ハロウィーン当日の 31 日午後 6 時～11 月 1 日午前 5 時も路上飲酒が禁止となる。また、多くの事業者が酒類販売を自粛する予定だ。

2019 年 11 月 1 日夕刊、第 11 面

5月の母の日並みの規模に成長を遂げた。

2018年11月1日夕刊、第11面

ハロウィーン 渋谷  
こりごり ゴミ散乱  
客足に影響

・東京・渋谷のハロウィーンから一夜明けた1日、仮装した若者らが早朝から路上のゴミを拾い集めるなど、「祭り」の後始末が始まった。10月31日の本番こそ大きな混乱はなかったものの、先週末からの逮捕者は計19人に上る。すっかりおなじみとなった秋の定番行事は、モラルやマナーなどの面で課題を残した。

「思っていたよりも道路にいっぱいゴミが捨ててあってびっくりした」。1日午前6時過ぎの渋谷センター街。天使やゾンビに仮装した若者らが行き交う路上で、舞妓（まいこ）姿のダンサー笹島萌さん（18）（埼玉県ふじみ野市）はハロウィーンを楽しんだ後、夜通しで友人とゴミ拾いを続けたという。四つの家庭用ゴミ袋には使い終えた仮装グッズや酒の空き缶などがぎっしり。「来年も仮装しながら掃除をした

ハロウィーン9人逮捕 渋谷 痴漢、暴行、スリ容疑

・ハロウィーンの10月31日から11月1日朝、仮装した若者らが集まった東京・渋谷で暴行や痴漢、スリをしたなどとして、警視庁は少年5人を含む15～51歳の男9人を逮捕した。

渋谷署幹部によると、渋谷駅前の繁華街では、酒に酔って路上でけんかをし、止めに入った機動隊員の顔を殴った男子大学生（22）ら2人を公務執行妨害容疑で逮捕したほか、ゲームセンターで男性店員（31）の顔を平手打ちした少年（19）ら2人も暴行容疑で逮捕した。

身動きが取れないほどの人混みとなった渋谷駅のハチ公前広場では、女性の尻を触ったとして男（40）ら2人を東京都迷惑防止条例違反（痴漢）容疑で逮捕。近くにいた男性のズボンのポケットから財布を抜き取った大学2年の男（19）も窃盗容疑で逮捕した。

	<p>い」と話した。</p> <p>渋谷区などによると、「渋谷ハロウィーン」のゴミは年々増え、昨年は計7・8トンに上り、ゴミの処理が深刻な課題となっている。区や地元商店主らは今年、駅周辺にゴミ箱やリユース用の回収箱を準備したが、路上には酒瓶などが散乱。また、女性の体を触ったりスマホで無断撮影したりするなど、違法行為やモラル・マナー違反は深刻化している。</p> <p>渋谷センター商店街振興組合の小野寿幸（としゆき）理事長（77）は「今年は特に目に余り、飲食店や商店の客足にも悪影響が出た。こんな調子が続くのであれば、もう渋谷ハロウィーンには来ないでほしい」と話す。</p> <p>こうした背景には、渋谷ハロウィーンが、企業や団体が主催するイベントではなく、若者らが自然発生的に公道に集うため、群衆の行き来する時間帯や地域、人数などを規制しづらいという事情がある。</p> <p>貝辻正利・神戸大都市安全研究センター特別研究員は「渋谷ハロウィーンを皆が楽しみながら、混</p>	<p>昨年ハロウィーンで酒に酔った若者らが路上で軽トラックを横転させるなどの事件が起きたため、今年渋谷区が路上飲酒を禁止した。今年の人出は昨年より少なかったとみられる。</p> <p><u>2019年11月2日朝刊、第35面 都民ハロウィーン逮捕「残念」渋谷区長 飲酒禁止条例は効果認識</u></p> <p>・ハロウィーンの10月31日から11月1日にかけて仮装した若者らが集まった渋谷区の長谷部健区長は同日、9人の逮捕者が出たことについて「残念に思う。なくなるように努めないといけない」と述べた。</p> <p>一方で、「ここ数年では一番安全で安心感があった。酔っ払いもゴミもケンカも大きく減った」とも述べ、条例による路上飲酒禁止や、警備員の動員といった区の対策が一定の効果を上げたとの認識も示した。</p> <p>区によると、31日夜から1日早朝にかけて、路上飲酒について区職員</p>	
--	---	--	--



乱も避ける即効的な  
解決策を講じるのは  
難しい。自治体や地  
元関係者らがモラル  
を打ち出してねばり  
強く協力を呼びか  
け、理性の働かない  
人が参加しづらいイ  
ベントになるよう中  
長期的に育てていく  
しかない」と話す。  
〈ハロウィーン〉

秋の収穫を祝う古  
代ケルト人の祭りが  
起源とされ、聖者に  
祈りをささげるキリ  
スト教の「万聖節  
(11月1日)」の前  
夜祭として欧米など  
で広く行われる。米  
国では、カボチャを  
くりぬいたちょうち  
ん「ジャック・オ・  
ランタン」などを家  
に飾り、子供たちが  
近所を回って菓子を  
もらう習慣がある。

◆計 19 人逮捕  
痴漢、スリ容疑など  
警視庁は 10 月 31  
日から 11 月 1 日にか  
けて、混雑に紛れて  
痴漢やスリなどをし  
たとして、少年 1 人  
を含む計 13 人を逮  
捕した。痴漢やスリ  
などの被害相談は数  
百件に上るとい  
う。渋谷ハロウィーンを  
巡る逮捕者は 10 月  
27 日以降、計 19 人  
に上った。

渋谷署幹部によ  
ると、渋谷センター街  
で 20 歳代の女性の  
下半身を触った 30

が注意した人は  
146 人 (77 組)  
で、酒類販売の自  
粛を要請した 41 事  
業者のうち、36 店  
舗が協力した。

長谷部区長は  
「路上飲酒禁止の  
成果が出たのは多  
くの店の協力のお  
かげだ」と感謝  
し、今後の課題と  
して外国人観光客  
らへの情報伝達が  
不十分だったこと  
などを挙げた。

	<p>歳代の男を強制わいせつ容疑で現行犯逮捕したほか、歩行者や路上で寝込んだ人を狙ったスリも逮捕した。警視庁は、27～28日に車が横倒しにされるなど混乱したことを受け、警備態勢を強化。違法行為は厳しく取り締まる姿勢を示していた。</p>		
『毎日新聞』	<p><b>2018年10月29日朝刊、第27面</b>  ハロウィーン5人逮捕 週末の渋谷 暴行容疑など  ・27日夜から28日朝にかけて、東京・渋谷の繁華街はハロウィーンの衣装をした若者らによって激しく混雑し、トラブルが相次いだ。軽トラックが横転させられたほか、警視庁渋谷署は暴行などの容疑で20～50代の男かけて、男5人を逮捕した。28日夜も、渋谷のスクランブル交差点や周辺は、衣装をした多くの若者らで混在した。  同署によると、28日午前1時すぎ、渋谷区のセンター街で走行していた軽トラックが取り囲まれ、荷台に乗り込まれるなどした。危険を危険を感じた運転手が車を離れた間に横転させられた。運転手</p>	<p><b>2019年10月26日夕刊、第9面</b>  「大人の学園祭」楽しみ方 厳戒ハロウィーン まずは節度守って  地元はこりこり  ・ハロウィーンは仮装して悪霊を追い出す古代ケルト人の祭りが起源とされる。ケル人が年末とし10月31日に秋の収穫も祝われた。日本では東京ディズニーランドのイベントなどを機に広が1990年代半ばから知名度が上がった。  渋谷センター商店街振興組合の小野寿幸理事長(78)を訪ねると、昨年の混乱を思い出したのか「あんな連中はもう来ないでほしい」と怒りをにじませる。「彼らは飲食店に入らず、コンビニで酒を買うくらい。経済効果はゼロどころか、マイナスだ」と語った。  渋谷区は対策とし</p>	<p><b>2023年10月13日朝刊、第9面</b>  ハロウィーン考 佐々木隆 罰則伴う法令なしに抑制困難  ・今年のハロウィーンは繁華街で人出が増え、例年になくトラブルが起こるのではないかと危惧している。この夏は「アフターコロナ」で行動制限がなくなったにもかかわらず、台風などで旅行を楽しめなかった人が多かったからだ。  ファンがコスプレをして「聖地巡礼」で東京・渋谷に押し寄せるかもしれない。渋谷のハロウィーンについて、昨年からの複数の人気アニメが取り上げている。作中、登場人物が東京メトロの線路に降り立つ描写がある。酒を飲んだ若者がまねをしないか心配だ。  ハロウィーンが日本で本格的に受け入れられるきっかけを</p>

から被害届が提出され、同署は器物損壊容疑で捜査している。

このほか、女性が胸を触られるなどの被害も発生し、暴行容疑で3人、東京都迷惑防止条例違反の盗撮と痴漢容疑で1人がずつがそれぞれ逮捕された。

渋谷では近年、ハロウィーン当日の31日や直前の週末に仮装した若者たちが集まるようになった。ただ、一部が夜通し騒いでゴミを散らかしたり痴漢などの被害が相次いだりすることが社会問題化。警視庁は今年も31日まで、柔らかな語り口で歩行者の誘導を行う「DJポリス」などを配置して警戒を続け、混雑状況に応じて交通規制を実施する。

#### 2018年11月1日朝刊、第27面

ハロウィーン渋谷厳戒 痴漢容疑など男2人逮捕

・ハロウィーン当日31日、東京渋谷の繁華街には、思い思いの仮装した若者が集まり大混雑した。渋谷では先週末、若者らが軽トラックを取り囲んで横転させるなどのトラブルが相次いだため、警視庁は機動隊員ら数百人

で渋谷駅周辺の路上や公園での飲酒を禁止する条例を制定した。長谷部区長は24日の記者会見で警備や啓発活動に臨時予算1億円を投じることを説明し「迷惑行為をせずに楽しみ、終電までに帰ってほしい」と節度ある行動を呼び掛けた。

厳しい規律課す

・一方、厳しい規律を設けるのがIT関連会社ドワンゴなどが2014年から開催する「池袋はハロウィンコスプレフェス」だ。ドワンゴによると昨年の来場者は2日間で計約10万5000人。このうち約2万人がコスプレの参加者で、専用更衣室で着替えて池袋駅東口のステージやパレードへと飛び出していくという。

目を引くのは「コスプレをしたままの来場及び退場禁止」「(男性が女装する場合)き毛、すね毛、ひげは処理する」などの注意事項だ。共催に豊島区やサンシャインシティなど地元の役所や企業が名を連ね、周りへの配慮がうかがえる。

ドワンゴ社員でプロデューサーの橋口雄樹さん(33)は「安心安全が絶対」と強調する。26日に主

作ったのは商業的側面からだ。1976年に洋菓子メーカー「モロゾフ」がハロウィーン向け商品の販売を始めた。83年には東京・原宿の玩具店「キディランド」が子供向けのパレードを実施した記録がある。97年には東京ディズニーランドの大規模イベントと、後に川崎市が運営に携わる「カワサキハロウィン」がそれぞれ始まった。

渋谷駅前に若者が自発的に集まるようになった要因は複合的だ。2002年のサッカー・ワールドカップ日韓大会で試合後、スクランブル交差点に人が集まった。以降「何かあれば皆で盛り上がる場所」という認識がメディアをと通じて広く共有された。また近年は埼玉や神奈川などの近県からの鉄道での行き来やすくなった。若い世代はアニメなどのオタク文化をプラスに捉え、コスプレを抵抗なく受け入れられる。ハロウィーンに仮装した若者が渋谷に集まるのはこうした事情が重なった結果だ。

今の若者は他者と時間を共有して精神的な高揚感を得たいという気持ちが強い。だが地元のお祭りでは年配者にあれ

態勢で警戒。渋谷署は、都迷惑防止条例違反（痴漢）容疑で20代の男を、公務執行妨害の疑いで40代の男をそれぞれ現行犯逮捕した。

渋谷駅前のスクランブル交差点では、同日夕から魔女やお化けなどの仮装した若者たちが増え始めた。

混雑が激しくなった午後7時ごろ、警視庁は駅近くの道玄坂などを車両通行止めにして歩行者に開放。柔らかな語り口で雑踏を警備するDJポリスが「歩きながらのスマートフォンはおやめください。落とすと大切な思い出が無くなります」と呼びかけ誘導した。

#### 2018年11月1日夕刊、第7面

ハロウィーン 夢の夜 つながり求め渋谷へ

・ゾンビ、天使、囚人、スーパーマン。31日夕、渋谷駅前のスクランブル交差点には、顔に化粧を施し、さまざまな衣装を身にまとった若者たちが集まってきた。数人で連れだつて歩き、携帯電話で写真や動画を撮り合う。東京都足立区の子供高生(16)は学校のトイレで口の周りを赤く塗り、友

催者側が貸し切る飲食店でコスプレヤーがアルコール込みで交流会する企画「池ハロティーパーティー」を初めて開くが、「コスプレヤーは行儀がいい。問題を起こせばコスプレの地位が落ちると思っているので大丈夫」と言い切った。

#### 地味な仮装競う

・渋谷では「地味ハロウィン」（地味ハロ）と呼ばれるイベントも27日に開催される。「CM明けに正体がわかる大物俳優M」「自分の番でシュレッダーがいったいになった人」など、地味でリアルな「あるある感」を楽しむ仮装をした人たちが集まる。発案したウェブ雑誌「ディリーポーZ」編集長の林雄司さん(48)は「渋谷のハロウィーンとは一線を画す文化系とトンチの祭り」と表現する。

開始は14年。昨年は800超が集まって時間切れで全員がステージに上がれなかった。毎年仮装姿で司会を務める林さんは人気を集める理由について「自分は地味だが、(渋谷に象徴されるような)派手な人をからかって承認欲求も満

これと指図される。ハロウィーンだったから、仮装して渋谷に行きさえすれば簡単に周囲との連帯感が得られる。ただ、主催者が不在で抑制が利かない。そのため悪いことをする一部の人たちが注目を集め、悪乗りして大騒ぎする人が出てくる。同様の現象は地方都市でも起きていて、逮捕者が出たケースもある。

そもそもハロウィーンの起源はアイルランドなどのケルト文化にある。死者の魂が戻ってくる日本のお盆のような行事に、収穫祭と正月といった複数の意味合いが重なったものだ。ケルト文化圏にキリスト教が広まっても、この習慣をキリスト教会は否定することなく聖人を記念する「万聖節」などと呼んでキリスト教の祭りへとすり替えた。当初、象徴となる作物はカブだったが、米国に伝わる段階でカボチャに変わった。さらに若者がお面をかぶってらんち騒ぎをするようにもなった。

つまり、ハロウィーンは日本に伝わる前から変容を繰り返してきた。荒れるハロウィーンを防ぐために宗教的な原点に立ち返るといふ発想

人と駆けつけた。「渋谷は人が多くて、いい意味で騒がしい」と笑顔だ。

渋谷のハロウィーンに主催者はいない。混雑が激しくなったのは、2014年ごろからだ。この年は10月31日が金曜日で、ソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)の普及で渋谷に集まる若者が急増。トラブルや苦情も相次いだ。翌年から渋谷区などが主体となってごみ集積所や着替え用スペースを設け、警視庁も警備を強化し始めた。

今年も本番直前の週末から、街は荒れた。10月27～28日に暴行などの容疑で20～50代の男5人が逮捕され、立ち往生した軽トラックを数人が取り囲み、横転させる事件も起きた。警視庁は警察官の増員を決め、深夜から未明の警備強化する「厳戒態勢」を敷いた。

なぜ、若者たちは渋谷を目指のか。「どこかで人とつながりたい気持ちがちよつとある」。川崎市から来たという病院職員の女性(33)はそう言った。普段はあまり出会いはない。だが、仮装していれば知らない人と気軽に声を掛け合ったり、

たされたい人たちの気持ちに刺さっているような気がする」と話している。

歴史浅く違って当然・海外由来の祭りについて考察しているコラムニスト、堀井憲一郎さん(61)の話 ハロウィーンにかこつけているだけで実体は学校を卒業しても楽しめる「大人の学園祭」。お金もかからず、参加も強制されない。輸入されて歴史が浅いので楽しみ方がバラバラなのは当然でそれぞれがそれぞれに楽しめばいい。

#### 2019年11月1日朝刊、第23面

ハロウィーン本番の渋谷 ゾンビにも警備の目

・ハロウィーン本番の31日夜、ゾンビや魔女などの仮装をした大勢の若者らが東京・渋谷に集まり街を練り歩いて楽しんだ。トラブルを防ぐために多数の警察官や警備員が巡回し、迷惑行為に目を光らせた。

渋谷のハロウィーンはここ数年マナーの悪さが目立ち、昨年は若者らが集団で軽トラックをひっくり返す事件も起きている。今年は渋谷区が指定区域内の飲酒

には無理がある。危機管理を徹底するには、飲酒を禁止する渋谷区の条例よりも強い罰則を伴う法令が必要だ。だが、それは国民の行動制限も伴うためハードルが高い。当面、行政の試行錯誤は続くのではない。

ウサコ 節度ある新文化には理解を

・ハロウィーンに良いイメージを持っていない人がいるとすれば、それは新しい文化であるがゆえに、まだその人の理解が追い付いていないからではないか。

先月、プロ野球セ・リーグで阪神タイガースが優勝した時、大阪の道頓堀に多く人が詰めかけて喜びを共有した。川に飛び込むなど度が過ぎる行為は慎しむべきだが、タイガースが関西で支持され、熱狂的なファンがいることは広く知られており、受容されている。ハロウィーンは世間の理解まだ広がっていないため、批判を招きやすい。

東京・池袋で2014年に始まった「池袋ハロウィンコスプレフェス(通称・池ハロ)」の運営に携わっている。池ハロは昼間の開催ということもあり、酒を飲んだ人が騒ぎを起こすこ

<p>一緒に写真を撮ったりできる。「日常ではこういうことは難しい。1年に1回だから楽しみたい」</p> <p>黄色のタイツに身を包み踊っている4人組もいた。大学の友人同士だという。神奈川県小田原から来た男子学生(20)は就職活動の真っ最中。志望するIT系企業は面接が進んでいるので、顔が分からないように大きなサングラスをかけている。「自分は悪いことはしない。渋谷の空気を感じたいからここにいる」と言った。彼らが求めているのは「非日常」のようだ。</p> <p>午後11時を回ると、DJポリスが渋谷駅に乗り入れる鉄道各線の終電の読み上げ始めた。</p> <p>午前1時、センター街に向けて歩いていた。週末、軽トラックが横転させられた事件が起きたのと同じ時間、同じ場所だ。トラブル回避のため、閉店時間を早めたり、瓶に入った酒類を撤去したりした店を横目に、半裸の男や酒瓶を片手に騒ぐ人たちがいた。誰かが叫ぶと、周囲も呼応する。ハロウィーンにかこつけた、らんちき騒ぎ人見えた。</p>	<p>を条例で禁止し、警備も強化。防犯カメラを付けたやぐらを設けて、警備員が拡声器で「立ち止まらないでください」などと呼び掛けた。ゾンビ姿で写真を撮っていた横浜市緑区の大学2年、中山結衣さん(20)は「去年よりも街が落ち着いた」と笑顔だった。</p> <p><b>2019年11月1日夕刊、第9面</b>  <b>渋谷厳戒下の狂騒</b>  <b>ハロウィーンルポ</b>  <b>飲酒・騒音 規制強化</b></p> <p>■はばやと閉店</p> <p>午後6時過ぎの渋谷センター街。アニメのキャラクターや魔女などに仮装した人たちが街に姿を現し始める中、「ヨコタ薬局」はいつもより2時間早く店を閉める準備をしていた。商品を盗まれたり、店の前に酒の空き瓶を捨てられたりした5年ほど前から閉店時刻を早めているという。取締役の横田秀実さん(59)は「若い人に楽しんでもらうのは悪くないが、客は来なくなり営業上のメリットは全くない。ある程度、渋谷の街に還元されるイベントになってほしい」と語った。</p> <p>ハロウィーンは仮装して悪霊を追い</p>	<p>とはない。参加するにはチケットが必要で、警備もしっかりしていて秩序が保たれている。地元の豊島区やIT大手「ドワンゴ」などが運営するイベントで、若者が自然発生的に繁華街に集うことは全くの別物だ。</p> <p>池ハロは池袋駅東口の一帯を会場に、コスプレをした参加者同士が写真を撮ったり、抽選でファッションショーのようにランウエーを歩けたり、パレードがあったりする。腕相撲大会や、親子が無料でステージに上がってコスプレを披露する企画もある。年々、右肩上がりに規模が大きくなり、昨年はコスプレをした参加者約2万人が来場した。</p> <p>池ハロの盛り上がりにはコスプレ文化の広がりが大きく影響していると感じる。かつては一部の人の趣味で、ハロウィーンの参加者は「仮装する」と表現されていた。だが今は「コスプレをする」という言い回しが普通に使われている。コスプレ特別な文化ではなくなり、若者同士が横のつながりを作る良いきっかけになっている。</p> <p>私がコスプレに目覚めたのも、まさに</p>
--	---	--

		<p>払う古代ケルト人の祭りが起源とされる。1990年代半ばから日本でも認知度が上がり、今や秋の一大イベントになった。渋谷のハロウィーンに主催者はおらず、十数年前から渋谷駅周辺に仮装した若者らが集まり始めた。当日が金曜日と重なった2014年には泥酔者らによるトラブルが鶴ぎ、昨年は軽トラックをひっくり返した若者らが逮捕される事態に発展した。</p> <p>■響くアナウンス 午後8時が近づくと、混雑が激しくなってきた。警視庁は交通規制を敷くため声が何度も飛び交った。</p> <p>「路上の飲酒は区の条例で禁止されています」――。センター街では日本語と英語によるアナウンスが断続的に流れる。区が今年6月に施行した、ハロウィーン期間などに渋谷駅周辺の路上や公園での飲酒や騒音を禁止する条例の内容を知らせるものだ。付近には計25基のやぐら(高さ約1・5メートル)が設けられ、民間の警備員が雑踏に目をやる。</p> <p>この日動員された警備員は132人。区職員も約30人が</p>	<p>ハロウィーンがきっかけだった。10年ほど前、東京都内のクラブ(若者が踊りを楽しむ場所)で数千人規模のロウィーンパーティーが開かれていた。そこで目立つためにアニメキャラクターの格好をしたのがそもそもの始まりだった。今も漫画「ワンピース」などのキャラクターのコスプレを楽しんでいる。</p> <p>着替えて何かに扮すると、普段と違う自分になれる非日常感があり、人に見てもらふことで自己肯定感が満たされる。特にアニメのキャラクターはその背景に物語があるため、感情移入ができるので楽しい。人気キャラクターのコスプレによって得られる反響は、その人自身の人気と受け取ることできる。別人になり得るコスプレは、当人をハロウィーンに没入させる効果も高いと思う。</p> <p>今の若者はルールに縛られず、新しいことに自由にチャレンジする気質がある。ただ、その分だけ一部に協調性がなく、迷惑な行為に及ぶ人が出てきやすいのかもしれない。だから若者自身の自覚も必要だと思う。自分たちの表現の場所</p>
--	--	--	--

		<p>班に分かれ、迷惑行為をする人に声をかけていた。警視庁も数百人規模の機動隊員や「DJ ポリス」を派遣した。</p> <p>■「お酒は飲みたい」</p> <p>「厳戒態勢」の渋谷にやってきた若者たちはどう感じたのだろうか。栃木県益子町から友人と初めて来た接客業の木村陽香さん(20)は「人が多くて大変だけど、みんなフレンドリー。こんな楽しいイベントはない」と声を弾ませ、「安全でみんなが笑顔のハロウィーンになる」と賛成の立場だ。バニガール姿で友人といたさいたま市の大学3年、関根和哉さん(21)は「何か起きるよりは安全な方がいい」と言いつつ、「正直、お酒はちょっと飲みたい」とこぼした。</p> <p>渋谷区は規制区域内で酒類を扱う販売の自粛を要請し、36店舗が協力した。それでも路上で酒を飲人はおり、旅行で訪れた男性(28)は「タイのイベントではいつも飲んでいる。欠かせないものだ」と話した。区は1日未明までに路上で飲酒したとして132人を指導。酒などを売ったとして11人を注意した。</p>	<p>を守るという意識が皆に生まれれば、荒れたハロウィーンも変わっていくかもしれない。</p> <p>鈴木達治 渋谷の印象覆されて悔しい</p> <p>ハロウィーンの渋谷は暴徒化した若者が集まる危険な場所だと見なされることに悔しさを禁じ得ない。渋谷は若者の街と思われがちだが、近年の再開発で多く大型複合施設が完成し、老若男女が楽しめる街となった。商店街振興組合によるパトロール隊は夜間にたむろする未成年や迷惑行為に対し、20年にわたり注意を呼び掛けてきた。家族連れが安全に通行できるのはこうした活動のたまものと自負している。それなのにハロウィーンの映像で渋谷のイメージが覆されてしまっている。</p> <p>ハロウィーンの渋谷駅周辺に、身動きが取れなくなるほど若者が集まるようになったのは2014年ごろからだ。メディアで取り上げられる混雑ぶりに組合としては眉をひそめていた。ただ騒ぎたいだけの若者による迷惑行為が後を絶えなかったためだ。</p> <p>確認された迷惑行為は幾つもある。店舗のシャッターが破</p>
--	--	--	--



		<p>・渋谷区は今年のパロウイーン対策に約1億円の予算を費やした。渋谷センター商店街振興組合の小野寿幸理事長(78)は「バカ騒ぎする連中に税金を使うのは情けない。治安なくして街の繁栄はない」と憤る。午前3時が近付いても、写真を撮り合ったり、ナンパのために声をかけようとしたりする若者の姿は絶えない。ゴミを捨てるボランティアをよそに多くの人が路上に座り込んでいた。</p>	<p>壊される。けんかの様子がネット交流サービス(SNS)で拡散され、渋谷のイメージが低下する。店舗の入り口に大勢が座り込み、店内に客が入れない。仮装の準備でトイレが長時間占される。18年には軽トラックが横転させられる事件が起き、逮捕者が出た。</p> <p>大量のごみや、まき散らされた吐しゃ物を清掃するのは店舗側の仕事だ。組合員の憤りの声は年々強まっている。</p> <p>組合は過激化する迷惑行為に危機感を強め、渋谷区に対策を求め続けた。19年に施行された、路上での飲酒を禁止する区の条例はその成果だろう。ただ、条例には罰則がなく、効果は限定的だと言わざるを得ない。条例に基づき、区は渋谷駅周辺の店舗に酒類販売の自粛を要請をしているものの、ゲリラ的に路上で酒を販売する業者が後を絶たない。酒を持ち込んで訪れる人も多い。路上飲酒は無くなっていないのが現状だ。</p> <p>人が大勢集まれば商機につながるという意見もあるだろうだが、パロウイーンの当日はほとんどの場合、街中はごった返しても店に入って</p>
--	--	---	---

		<p>くる人は減るため、売り上げが落ちしまう。遅くまで店を開けていると泥酔した客が店内で暴れるリスクがあり、閉店後に帰宅する従業員が混乱に巻き込まれる恐れもある。多くの店が午後6時ごろまでに閉店するのは、正しい判断だと思う。</p> <p>新型コロナウイルスの感症法上の位置づけが5類に移行した5月以降、夜間に渋谷駅周辺の路上で飲酒する外国客らが目立つようになった。海外に来て開放的になり、羽目を外している人も多いのではないか。今年のハロウィーンは彼らも大勢、集結するのではないかと懸念している。</p> <p>渋谷区の長谷部区長は9月の記者会見で「ハロウィーン目的で渋谷には来ないでもらいたい」とのメッセージを打ち出した。全く同感だ。22年に韓国・ソウルの繁華街で大勢が犠牲になった雑踏事故のような事態はいつ起きても不思議ではないと感じる。ハロウィーンに渋谷を訪れようとしている人はどうか思いとどまってほしい。</p> <p><b>2023年11月1日朝刊、第23面</b> 渋谷 自粛モード</p>
--	--	---

		<p>仮装する若者まばら「来ないで」声届いた？</p> <p>・ハロウィーン当日の31日、東京のJR渋谷駅周辺の繁華街は夕方から夜にかけて、仮装した人の姿はまばらだった。新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行してから初めてということもあり、今年は多くの人出が予想されていた。そんな中で、渋谷区長が「ハロウィーン目的で来るのは考え直してほしい」と呼びかけていた。現地での異例の対応が、自爾につながったとみられる。</p> <p>渋谷駅近くのスクランブル交差点周辺では夕方から、徐々に人通りが増え始め、外国人観光客らの姿も見られた。</p> <p>ただ、新型コロナ流行前のように、大勢の仮装する若者らが集まる光景はなかった。</p> <p>人気ゲーム・スーパーマリオブラザーズの仮装をしていた相模原市の男性(22)は「仮装している人が少ないのは寂しいが、事故が起きないように気を付けて行動したい」と話した。</p> <p>交差点付近は警視庁の機動隊員が多く配置され、交通整理を実施。柔らかな語</p>
--	--	--

		<p>り口で通行人を誘導するDJポリスも出動し、英語や中国語も交え、注意喚起した。午後10時現在で目立ったトラブルは無かった。</p> <p>渋谷では2018年、集まった人たちが軽トラックをひっくり返すなど、これまでもトラブルが起きていた。22年10月には韓国・ソウルの繁華街・梨泰院で、ハロウィーンを前に集まった多くの若者らが犠牲となる雑踏事故もあった。</p> <p>こうした状況や新型コロナウイルスの5類移行を踏まえ、渋谷区は2週間ほど前から「渋谷はハロウィーンの会場ではありません」と来場自粛を呼びかける大型看板を設置した。</p> <p>さらに、普段から多くの人が集まる駅前のハチ公像の周辺に仮囲いを設置して封鎖。センター街では、駅側の出入り口を一方通行にして誘導するなど、狭い場所に人がとどまらないような措置を取った。</p> <p>トラブルの原因になりかねない路上飲酒についても対策を講じた。区条例に基づき、27日～11月1日は駅周辺の指定区域内の路上で夜間の飲酒を禁止。当日の31日などは、周囲の</p>
--	--	--

			<p>コンビニエンスストアなどへ酒類の販売自粛を要請した。</p> <p>海外から留学中という女性(26)は「路上飲みの禁止は良いことだと思う。それぞれ仮装を楽しめば良い」と話した。</p>
『日本経済新聞』	<p><b>2018年10月24日朝刊、第35面</b></p> <p>ハロウィーン、節度守って楽しんで 瓶入りの酒類販売自主要請</p> <p>・23日の記者会見で長谷部健区長は「ハロウィーンの様相がだんだん変わってきた。人が集まりすぎて危なくなっている」と指摘。「節度を持ってマナーをもって遊んでほしい」と呼びかけた。</p> <p>区は渋谷駅周辺のコンビニエンスストアなど17店に瓶入りの酒類の販売自粛も要請する。期間は31日午後6時から11月1日午前6時まで、昨年までのハロウィーンでは割れた瓶が路上に散乱する事例が相次ぎ、車がパンクしたり通行人がけがをしたりする恐れがある。</p> <p>仮装に着替える「フィッティングルーム」も用意する。例年、渋谷駅や百貨店のトイレで着替える人が多く、一般客が利用できない事態が起きていることに対応する。</p>	<p><b>2019年10月21日朝刊、第5面</b></p> <p>ハロウィーン 渋谷で酒販売自粛へ コンビニなど検討、区に要請で</p> <p>・渋谷区は、ハロウィーン前の週末の26日～27日、当日の31日～11月1日の各午後5時から翌午前5時に酒類全般を販売しないように要請している。昨年は冷蔵で販売されている瓶入りの酒類だったが、範囲を広げた。対象は酒類を取り扱うコンビニなどの小売り店舗。</p> <p><b>2019年10月25日朝刊、第39面</b></p> <p>「寛容な街」にモラルを 渋谷区、安全対策に力</p> <p>・延べ200人超の民間警備員、20カ所以上に配置する監視台、道を封鎖し、人を誘導するためのバリケード…。東京都渋谷区は区の予算を使ってハロウィーン的安全対策に乗り出す。その額1億292万円。区が予算を投じて対策に取り組むのは今年が初め</p>	<p><b>2023年10月20日朝刊、37面</b></p> <p>混雑予想のハロウィーンへ 警戒強化、渋谷路上飲み迷惑深刻 「例年仮装を楽しむ人が渋谷に集合し、ピーク時の人出は2019年の4万人。今年には6万人を見込む。22年には可韓国・ソウルの繁華街で雑踏事故が起き、安全管理も課題となっている」</p> <p>「区は改善なければ通年で規制や罰金の導入も議論せざるをえない」（安全対策課）と説明する。」</p> <p><b>2023年10月29日朝刊、27面</b></p> <p>渋谷の混雑厳戒</p> <p>「仮装した若者や外国人の姿は少なく、午後9時時点では例年のような騒ぎは見られなかった。</p>

	<p><b>2018年10月29日朝刊、第35面</b>  ハロウィーン渋谷騒然 若者悪ノリ 軽トラを横転 痴漢や盗撮で逮捕者も  ・ハロウィーン前の週末となった27日夜から28日朝にかけて、東京都渋谷区の繁華街は仮装した若者らで混雑し、一時騒然となった。軽トラックが横転させられたほか、痴漢などの疑いで5人が逮捕された。</p> <p>警視庁渋谷署によると、センター街で28日午前1時ごろ、若者ら数人が軽トラックの荷台に乗り込み、取り囲んだ。運転手が警察に通報しようとしたときに横転させ、立ち去ったという。けが人はいなかったが、車の一部が破損。渋谷署は器物破損容疑で捜査している。</p> <p><b>2018年11月1日朝刊、第39面</b>  ハロウィーン 街おこし転機？  ・10月31日のハロウィーンを控えた週末、東京・渋谷の繁華街に集まった若者たちの一部の行状が問題になっている。軽トラックを取り囲み、ひっくり返して大騒ぎする動画がインターネットのSNS（交流サイト）に投</p>	<p>てだ。</p> <p>多額の経費をかけることに渋谷区内では異論もあったが、「安心安全が伴っていないにぎわいはあり得ない。街の治安確保に全力を尽くす」。区の小原純哉・安全対策課長は力を込める。</p> <p>壮大な劇場空間  ・今やハロウィーンイベントは各地で開かれている。例えば川崎市の「カワサキハロウィ」。親子連れも楽しめ、期間中に10万人以上を集める一大イベントに成長した。なぜ渋谷では荒れるのか。</p> <p>都市政策に詳しい井口典夫・青山学院大教授は「世界的に発信力抜群のスクラブル交差点は壮大な劇場空間。自分を表現したい若者が渋谷に引き付けられている」と指摘。東洋大の戸梶亜紀彦区黄綬（社会心理学）は「競馬場で自然とウエーブが起きるように、同じ目的で集まった人同士では感情が伝染しやすい。同様に渋谷に騒ぎに来た人たちは周りが盛り上がりれば羽目を外しやすい」と分析する。</p> <p><b>2019年10月25日夕刊、第13面</b>  ハロウィーン暴走防げ 警視庁あすから</p>	
--	--	--	--

稿され「暴徒化」という声もあった。暴力行為などで5人の逮捕者も出た。

一方、川崎市では国内最大のハロウィーンイベント「カワサキ ハロウィーン 2018」が同じ週末の10月27日、28日に開催された。事前申込制のパレードには約2200人が参加し、沿道には約12万人の観客が集まった。

・日本記念日協会の推計によれば、日本のハロウィーン関連市場の規模はバレンタインデーに匹敵するほどだが、ここ数年は伸び悩んでいる。ネット上では「今回の渋谷の騒動で、日本のハロウィーンももう終わり」との議論もみられる。ハロウィーンを地域活性化に役立てようという取り組みも曲がり角なのかもしれない。

厳戒 DJ ポリス◆  
テロにも備え

・「NO 迷惑行為」  
「ハロウィーンを渋谷の誇りに」。渋谷・センター街の至る所で、常識ある行動を呼びかける掲示や旗が目に入る。

「コンビニエンスストアには路上飲酒を禁じる6月施行の区条例の案内文が貼られ、月末に迫る本番を前に街は警戒ムード一色だ。

・警視庁は正攻法としてスクランブル交差点付近にDJポリスを配置し、日本語や英語で雑踏事故への注意を呼びかける。大型車両や車止めテロ行為へも備えつつ、事件やトラブルが発生すれば警察官を現場へ急行させる体制を取るという。

2019年10月28日  
夕刊、第11面

ハロウィーン雑踏で  
スリ疑い 渋谷、男  
を逮捕

・ハロウィーンにあわせて混雑した東京・渋谷で26日夜、財布などをかばんから抜き取ったりして、警視庁捜査3課は28日、住所不定の無職、小谷秀一容疑者(24)を窃盗の疑いで現行犯逮捕したと発表した。同署によると、小谷容疑者は「間違いあ

		<p>りません」と容疑を認めている。</p> <p><b>2019年11月2日朝刊、第35面</b>  ハロウィーンの路上飲酒禁止 渋谷区長「効果あった」  ・ハロウィーンから一夜明けた1日午前、東京都渋谷区の長谷部健区長が記者団の取材に応じた。安全対策のために路上飲酒を禁止する条例を施行して臨んだ今回のハロウィーンについて「罰則がないにもかかわらず、大半の人が守ってくれた。効果はあったと思う」と一定の評価をした。</p>	
--	--	---	--

※2020年～2022年はCOVID-19が2類であったため、上記の表より除外した。

上記の表に取り上げなかったが、日本で最初でハロウィーンパレードを開催した原宿や1997年に地域活性化を主眼に開催されたカワサキハロウィン、さらにハロウィーンの原点を辿るなどの記事もあった。中でも『日本経済新聞』（2018年10月27日朝刊、第11面）の「ネット通じて普及 仮装・祭り魂に火」「ハロウィーン、なぜ日本に定着？」、『日本経済新聞』（2018年11月1日朝刊、第39面）の「ハロウィーン 街おこし転機？」がある。『朝日新聞』（2023年10月31日朝刊、第1面）の「天声人語」には「それぞれのハロウィーン」と題して「異文化から伝わった行事や祭りは数あれど、ハロウィーンほどつかみどころがないのは珍しい。日本に限らず、時代や地域によって多様に変貌（へんぼう）したせいかもしれない。その起源は、現在のアイルランドやその周辺にいた古代ケルト人の季節祭とされる。数千年を経たいま、ほぼ原形をとどめていない」と指摘していることは注目しておきたい。

『毎日新聞』（2023年10月13日朝刊）では「ハロウィーン考」として筆者が罰則伴う法令なしに抑制困難」、渋谷センター商店街振興組合の理事長・鈴木達治「渋谷の印象覆るされて悔しい」、コスプレイヤーのウサコ「節度ある新文化には理解を」など、それぞれ違った立場でのコメントを紙面にまとめた特集は読みごたえがある。

なお上記では取り上げなかったが、ハロウィーンと言えば「カボチャ」というアメリカで誕生した後発のイメージ付けはビジネス的には大きな効果はないようである。



いっぽうハロウィンに欠かせないカボチャは、ケーキやチョコレートのようにロマンティックで華やかな記号とメッセージを喚起する商品にはなりづらい。日本においては、カボチャを食べる冬至が知られている。しかし、そもそもハロウィンのカボチャはあくまでも装飾モチーフであって、西洋ではハロウィンにカボチャを食べる習慣はない。本来の意義や民俗的な伝統がさほど重要ではない日本において、ハロウィン行事の定義を独自に創造することも可能である。しかしハロウィン、カボチャやその加工品を食べるイベントとしての意味を与えられることはなかった。菓子業界ではハロウィンが近づくとカボチャを使った洋菓子などを販売する試みも行われている。しかしそれらもクリスマスのケーキやバレンタインのチョコレートのような位置づけにはなく、多大な売り上げをもたらす中心商品になっているとはいえない（関口 46）。

日本でのハロウィーンへの注目を見る場合には仮装からコスプレへの変容、すなわち子どもためのイベントではなく、若者のイベントと言う側面が強いことが分かる。しかし、原宿表参道ハローハロウィーンパンプキンパレードのように子ども主体のイベントを継続しているところもあり、荒れるハロウィーンと対照的である。

## 5 マスコミにおける筆者のコメント

筆者は 2018 年のハロウィーンの時期における渋谷センター街でのトラブルを期にコメント等を求められた。新聞、さらにテレビ及びラジオ出演時における内容等簡単にまとめておきたい。

### (1) 「羽鳥慎一モーニングバード 渋谷ハロウィーン狂想曲の波紋」(テレビ朝日、2018年10月30日)

日本のハロウィーンについて「渋谷の暴徒化」「もともとのハロウィーン」「渋谷に若者が集まる要因」「対策としてカワサキハロウィンから学ぶもの」「地味ハロウィン」について解説した。生放送のため、他のコメンテーターからの質問に解説した。特に、日本のハロウィーンがケルトのものが直接入ってきたものではなく、アメリカで変容したものが日本に入ってきたこと、渋谷スクランブル交差点は日韓ワールドカップで注目をあび、リオのオリンピック引き継ぎ式の映像の冒頭でも使われたことがなど、一般の方にもわかるように解説した。

### (2) 「主催者なし ステージのような魔力 渋谷ハロウィーン マナー守って」(『東京新聞』朝刊、2018年10月31日)

ハロウィーンに関する情報提供及び電話による取材を受け、コメントした。一部記事

の内容を抜粋で紹介。

「佐々木隆・武蔵野学院大大学院教授（ポップカルチャー）は「仮装しているので、普段より思い切った行動を取りやすい。そこに集団心理を相まって、突飛な行動に走る人も出てくのでは」と話す。ここに酒の力が加われば、過激さも増す。

近年の混乱から、地元の長谷部健・渋谷区長は 23 日、終電までの帰宅や、瓶に入った酒の販売自粛などを初めて呼びかけたが、「日本では 9 月からハロウィーン商戦が始まり、31 日が当日と知らないすらいる。区の対策は良いが、周知するには遅すぎる」と佐々木教授。「鉄道の相互乗り入れの影響で、渋谷の地盤沈下懸念されており、規制は避けたいだろうが、このままいけば大変なことになる」と行政、警察、地元商店街によるルール作りを求める。

※ここで言う地盤沈下とは地下鉄等の乗り入れなどにより終点ではなく、通過駅となる懸念があり、その意味で渋谷の人出の地盤沈下。

## (2) 「Nスタ ハロウィーン なぜ渋谷がこんな事に？」(TBS、2018年11月1日)

ハロウィーンの市場規模の低下、渋谷のハロウィーンを今後どのようにしたらよいかについて、「参加者は自由と責任、渋谷は組織作りとルール作り」が必要とコメントをまとめた。ハロウィーンの市場規模の低下、渋谷のハロウィーンを今後どのようにしたらよいかについて、「参加者は自由と責任、渋谷は組織作りとルール作り」が必要とコメントをまとめた。

## (3) 「ハロウィーン考 罰則伴う法令なしに抑制困難」(『毎日新聞』朝刊、2023年10月13日、第9面)

今年のハロウィーンは繁華街で人出が増え、例年になくトラブルが起こるのではないかと危惧している。この夏は「アフターコロナ」で行動制限がなくなったにもかかわらず、台風などで旅行を楽しめなかった人が多かったからだ。

ファンがコスプレをして「聖地巡礼」で東京・渋谷に押し寄せるかもしれない。渋谷のハロウィーンについて、昨年より複数の人気アニメが取り上げている。作中、登場人物が東京メトロの線路に降り立つ描写がある。酒を飲んだ若者がまねをしないか心配だ。ハロウィーンが日本で本格的に受け入れられるきっかけを作ったのは商業的側面からだ。1976年に洋菓子メーカー「モロゾフ」がハロウィーン向け商品の販売を始めた。83年には東京・原宿の玩具店「キディランド」が子供向けのパレードを実施した記録がある。97年には東京ディズニーランドの大規模イベントと、後に川崎市が運営に携わる「カワサキハロウィン」がそれぞれ始まった。

渋谷駅前に若者が自発的に集まるようになった要因は複合的だ。2002年のサッカー・ワールドカップ日韓大会で試合後、スクランブル交差点に人が集まった。以降「何かあれば皆で盛り上がる場所」という認識がメディアをと通じて広く共有された。また近

年は埼玉や神奈川などの近県からの鉄道での行き来やすくなった。若い世代はアニメなどのオタク文化をプラスに捉え、コスプレを抵抗なく受け入れられる。ハロウィーンに仮装した若者が渋谷に集まるのはこうした事情が重なった結果だ。

今の若者は他者と時間を共有して精神的な高揚感を得たいという気持ちが強い。だが地元のお祭りでは年配者にあれこれと指図される。ハロウィーンだったら、仮装して渋谷に行きさえすれば簡単に周囲との連帯感が得られる。ただ、主催者が不在で抑制が利かない。そのため悪いことをする一部の人たちが注目を集め、悪乗りして大騒ぎする人が出てくる。同様の現象は地方都市でも起きていて、逮捕者が出たケースもある。

そもそもハロウィーンの起源はアイルランドなどのケルト文化にある。死者の魂が戻ってくる日本のお盆のような行事に、収穫祭と正月といった複数の意味合いが重なったものだ。ケルト文化圏にキリスト教が広まっても、この習慣をキリスト教会は否定することなく聖人を記念する「万聖節」などと呼んでキリスト教の祭りへとすり替えた。当初、象徴となる作物はカブだったが、米国に伝わる段階でカボチャに変わった。さらに若者がお面をかぶってらんちき騒ぎをするようにもなった。

つまり、ハロウィーンは日本に伝わる前から変容を繰り返してきた。荒れるハロウィーンを防ぐために宗教的な原点に立ち返るといった発想には無理がある。危機管理を徹底するには、飲酒を禁止する渋谷区の条例よりも強い罰則を伴う法令が必要だ。だが、それは国民の行動制限も伴うためハードルが高い。当面、行政の試行錯誤は続くのではないか。

#### (4)「首都圏情報ネタドリ 「史上最大」の厳戒態勢 渋谷ハロウィーンに潜むリスクとは」(NHK 総合、2023年10月27日/10月28日、再放送)

渋谷ハロウィーンが主催者がいないこと、コロナ後5類となって初めてのハロウィーンを迎える渋谷ハロウィーンについて、その原点を紹介。ハロウィーン自体の起源、キディランドのハロウィーンパレードが1983年に開催され、これが日本のハロウィーンパレードの原点。渋谷が象徴的な役割を果たすようになったのは2002年の日韓ワールドカップのスクランブル交差点でのハイタッチ現象、その後のカウントダウンイベントなどで定着。そして現在、若者が集まって来る現象へ。やって来る人をどうコントロールするかが問題と指摘した。

#### (5)「荻上チキ・Session ハロウィーン特集」(TBS ラジオ、2023年10月31日)

主な内容は、ケルトとは何か、ハロウィーン起源は？、サウイン祭の前日の夜、ドルイド教とケルト文化、文字を持たない文化(文字による記録が極めて少ない文化)、仮装の原点もよくわからない、キリスト教の影響、11月1日をサウイン祭から万聖節へ。収穫祭、異界の扉が開き、魂が戻って来る。日本で言えば、正月とお盆が同時に行われるようなイメージ。All Hallows Day。その前日の夜(10月31日)がAll Hallows Eve

となり、Halloween となる。

アイルランドからのアメリカへの移民でカブからかぼちゃへ。トリック・オア・トリートがはじまったのは 1920 代後半。こどものイベントへ。ビジネスとの結び付きが強化。

日本へ。1908 年には田中哲『外遊九年』でアメリカ留学中のハロウィーンが紹介される。大統領のマスクをかぶっての仮装など。若者が騒ぐ。記録上のこと。仮装のパレードは 1983 年に原宿でキディランド主宰の子ども対象のハロウィーンパレードがおそらく日本で最初か。1997 年に東京ディズニーランド、カワサキハロウィンが開始。その後、USJ でもホラーナイトが、2002 年の日韓ワールドカップにより渋谷スクランブル交差点でのハイタッチ現象や東京オリンピック招致決定後には渋谷区などがカウントダウンイベントを開催。2018 年にはセンター街でのトラック横転事件。2019 年に条例を制定。2020 年～2022 年はコロナの影響。2023 年はアフターコロナで心配。渋谷区は早くからメッセージを発信。

筆者がマスコミ等へコメントの内容は 4 つに分類される。「ハロウィーンの起源」、「日本のハロウィーン受容の概略」、「いつ頃から若者が渋谷に集結するようになったのか」、「荒れるハロウィーンの原因は何か」である。報道の場合には一般読者や視聴者にわかりやすく解説することが必要なため、事実だけを報道するのではなく、その背景を説明することになるからだ。筆者が特に強調したのは「荒れるハロウィーンの原因は何か」であるが、これは主催者がいないことが最も大きな要因であると考えている。また、酒類の存在も無視できないものがある。「荒れるハロウィーン」は日本だけでなく、アメリカでも Mischief Night、Devil's Night などと呼ばれる状態もあり、どの国でも若者は荒れるようだ。

## 6 注目されるスクランブル交差点

渋谷スクランブル交差点、正式名は渋谷駅前交差点であるが、1973 年に誕生した。2023 年はスクランブル交差点半世紀であった。

日本国内においては、現在お天気カメラが設置されている一つに駅前スクランブル交差点があり、毎日天気予報でその様子を見る人も多いだろう。また、平成 14 年、平成 22 年の FIFA 男子 W 杯での初戦に勝利した際には新聞記事だけでなくニュース映像で使われることがあった。試合勝利を報道するにあたり、近年ではほぼ必ず渋谷に集う人々をレポートしている。新聞記事の文章ではなく視覚によってこの現象を確認することでいっそうその様子がわかり渋谷のスクランブル交差点に行けば人が集まっている、勝利を喜び合えるという期待感を持ちカウントダウン時には「人がいそうだから」という理

由でやってきた若い女性や、W 杯での勝利時にスクランブル交差点へ目指してやってくる人々がいるのだと考えれる。

「渋谷といえばスクランブル交差点」という意識はかつてよりも広く浸透しており、世界規模でも認められる現代文化の象徴として捉えることができるかもしれない。ただ駅前にあるから、人通りが多い場所だからという理由だけではなく、年越しのカウントダウンやサッカーの勝利時などの現象が起こりやすい場所といえるだろう（高久 329-330）。

スクランブル交差点でのハイタッチムーブメントは W 杯に象徴されるサッカーの勝利に見られる。

サッカーの勝利時というのはより明確である。このような行為がみられるのは、サッカーでの試合が勝利した時のみだからである（高久 332）。

.....

...多くの人々が「試合に勝利した」という認識を持つのは、お揃いのユニフォームと応援歌が多分に影響していると考えられる。サポーターと言われるサッカー観戦者(愛好家)は応援する際にサッカー日本代表のレプリカユニフォームを着ている。また、応援歌も共通しているため、ユニフォームを着て応援歌を歌っていればそれが目印となって同じ目的(勝利を祝う)を持った者が自然と集まり中心層を作り出していくのである。他のスポーツで集まることはなくサッカーの勝利時のみ突出している理由の一つであろう（高久 332）。

こうした指摘は他でも示されている。

ハロウィンと日本代表戦という、スクランブル交差点で繰り広げられる 2 つの「お祭り」。ともに 2010 年代初頭から顕在化した動きについて紹介したが、これらのイベントを筆頭に、日本では「観客と演者を行き来しながら楽しむ」「同じような格好をして、対象となるコンテンツを単なるきっかけとして消費しながらお祭り騒ぎをする」「その様子を SNS にアップする」というような行動が一般的となっていった。最近ではクリスマス近辺の街中にもコスプレをした人を見かけるようになり、制服を着てディズニーランドやディズニーシーに行く(現役の高校生でなくても過去の制服を着るなどする)「制服ディズニー」という楽しみ方も定着した(レジュー 191-192)。

スクランブル交差点についての印象は様々なようだ。スクランブル交差点がぶつからずに人が往来できるのは外国人から見ると独特なようだ。井上和彦と 2008 年に高校 2 年生の時来日した春香クリスティーン(父日本人、母スイス人)対談で渋谷スクランブル交差点

の秘密として次のように述べている。

スクランブル交差点を、われがわれがって自己主張して自分の歩きたいようにだけ歩いていたら、絶対に他の人とぶつかるでしょう。ぶつからないのは、お互いに譲り合ったり空気を大事にしたりする精神、日本人がみんな普通にできる、ささやかな心配りのおかげなんじゃないかと思った瞬間でした（春香 311-312）。

そんなスクランブル交差点もハイタッチムーブメント、さらにそれに続く渋谷センター街は渋谷を象徴するスポットになっている。渋谷が象徴的な役割を果たしていたのはハロウィーン以前はサッカーW杯であった。

自分をよく見せるためのSNSネタとしてのフェス。それを下支えするスマートフォンというインフラ。カップルで、友達同士でという「誰かと一緒に」的な価値観。そんな流れが固まってきたのと同じようなタイミングで、日本に新たな「お祭り」が誕生した。それがハロウィーンである。

もちろん行事としては海外を中心に昔からあったものであり、日本でも各地のテーマパークで以前からハロウィーンイベントは行われていた。それが2011年～2012年あたりから、突如として「街中での仮装」という形で市中にはみ出してきた。その証拠に、「Googleトレンド」で「ハロウィーン コスプレ」というキーワードを調べると、2012年にそれまでの推移とは異なる大幅な伸びを示している（2011年10月→2012年10月の伸びが約2.5倍、以降の年の伸びは約2倍、約1.1倍、約1.2倍、約1.1倍）。

そんな「お祭り」のシンボリックな場所が、渋谷のスクランブル交差点である。ここ数年、ハロウィーン当日となる10月31日の1週間ほど前からあのエリアは不思議な空間になる（レジー 186-187）。

2002年のサッカーワールドカップ以外には、前述の通りカウントダウンイベントが開催されたことがある。

人々が自然に集団をなすには、作り上げられたイベントではない限り、なにかのきっかけが必要である。そのきっかけとは何であろうか。

1つは年越しである（高久 331）。

年越しとはカウントダウンである。当初は自然発生的に起きているカウントダウンも、区が主導してイベント化していた時期もあったが、現在はむしろこれを禁止する立場へと態度を転換した。しかし、今後も小規模のカウントダウン的なものは起きるだろう。サッカーのハイタッチムーブメントやカウントダウンと異なりハロウィーンの特徴はコス

プレにある。

スクランブル交差点のハロウィンに仮装して参加する人々は、「演者」でもあり「観客」でもある。何を演じているかという点、「ハロウィンというお祭りにおいてコスチュームを着て騒ぐ人たち」である。ここにはもちろん本来の宗教的な意味合いなど関係ない(ハロウィンの本当の由来を知っている人はほとんどいないのではないだろうか)。そこで演じた結果が SNS に載り、「RT」や「いいねー!」といった SNS 上の評価に換算される (レジー 189)。

渋谷ハロウィーンのコスプレはコスプレヤーがするような本格的なコスプレではなく、もっと気軽な仮装ということになるかもしれない<sup>(25)</sup>。スクランブル交差点でコスプレした人が騒ぐということではなく、むしろ。渋谷駅からセンター街へ向かう時に、一度信号待ちをして、いざ「センター街へ」というまるで能狂言で言う橋掛かり、歌舞伎の花道的な役割がスクランブル交差点にはあるのではないだろうか。

#### エピローグ

新型コロナウイルス感染症の扱いが 2 類から 5 類に移行して初めての 2023 年のハロウィーンは大きな混乱もなく終えることが出来た。これには渋谷区のはっきりとしたメッセージが功を奏したと言ってよいだろう。特に「渋谷来ないで」宣言 (2023 年 9 月 12 日) 後には、「渋谷はハロウィーンイベント会場ではありません」(2023 年 10 月 17 日) という看板を渋谷駅前に設置し、言葉のメッセージだけでなく、これを見える化したこと、さらに各報道機関がこれを大きく取り上げたことによって、ハロウィーン時期に渋谷に来る人は激減し、大きなトラブルはなかった。2024 年、2025 年もある程度の対策は取らざるを得ないだろう。

クリスマスやバレンタインといった他のイベントとハロウィーンは決定的に異なっている。関口は次のように述べている。

いっぽうでハロウィンはどうだろうか。ハロウィンは本来、複雑な意味を持っているために行事内容が特殊で、参加主体も多層的である。アメリカの文化的、歴史的な基盤の中ではハロウィンのあり方がすでに確立され、受け入れられている。しかし日本の各業界が商業イベントとしてハロウィンの導入を試みた際、導入する側、消費者側双方の祝祭に対する理解や文化的な基盤は皆無に近い状況だった。そのため、誰が、何のために、何をやる祝祭なのか、という行事全般にわたる定義づけが曖昧なまま、商業イベントとして見切り発車をしてしまったという一面がある。

ハロウィンはホラーや悪ふざけといったマイナスイメージが強く、クリスマスやバレ

ンタインダーのようなロマンティックでパーソナルなイベントという要素を持たない（関口 42）。

本格的な日本のハロウィーンの起点を 1983 年とすれば、まだ 40 年の歴史しかない。しかも、ハロウィーンがどういうものなのかとは関係なく、それぞれのビジネス目的のイベントや映画などによるホラー的な要素を強調するものなど、多様化したままに別々に発展してきたことになる。若者が好物のホラーもの、騒げる要素が満載のハロウィーンは「とりあえずビール」ではないが、「とりあえず渋谷へ」という定番が出来つつあった。2023 年の渋谷区の明確なメッセージにより「とりあえず渋谷へ」は、「今年はやめておこう」、あるいは「ならば新宿歌舞町へ」と分散化されたと言ってよいだろう。2024 年の渋谷のハロウィーンがどうなるかは、まだ渋谷区の対応が大きな鍵を握りそうだ。

## 注

- (1) (株) キディランドとワシントンハイツとの関係については 2023 年 10 月 27 日（28 日再放送）の NHK 総合「首都圏情報ネタドリ 「史上最大」の厳戒態勢 渋谷ハロウィーンに潜むリスクは」の中で紹介されている。なお、筆者はこの番組の 10 月 14 日のロケ取材に同行し、(株) キディランドより直接 1983 年 10 月のハロウィーンパレード誕生の裏話を聞くことができた。その一部が放送された。今後さらにワシントンハイツについてリサーチを行いたい。
- (2) 「原宿表参道ハローハロウィーンパンプキンパレード 2023」  
(<https://halloween.omotesando.or.jp/guidance/>) 2023 年 11 月 27 日アクセス。
- (3) 「モロゾフ HP」  
([https://www.morozoff.co.jp/company\\_ir/history\\_1960.html](https://www.morozoff.co.jp/company_ir/history_1960.html)) 2023 年 12 月 3 日アクセス。
- (4) 「カワサキハロウィン」  
(<https://kawahalihalloween.com/>) 2023 年 11 月 28 日アクセス。
- (5) 一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2015 年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約 11%増の 1220 億円」  
(<http://www.kinenbilabo.jp/?p=406>) 2020 年 8 月 20 日アクセス。
- (6) 一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2016 年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約 10%増の約 1345 億円。」  
(<http://www.kinenbilabo.jp/?p=470>) 2020 年 8 月 20 日アクセス。
- (7) 一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2015 年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約 11%増の 1220 億円。」  
(<https://www.kinenbilabo.jp/?p=406>) 2020 年 8 月 20 日アクセス。



- (8)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2016年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約10%増の約1345億円。」  
(<https://www.kinenbilabo.jp/?p=470>) 2020年8月20日アクセス。
- (9)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2017年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約3%減の約1305億円。」  
(<http://www.kinenbilabo.jp/?p=607>) 2020年8月20日アクセス。
- (10)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2018年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約5%減の約1240億円。」  
(<http://www.kinenbilabo.jp/?p=719>) 2020年8月20日アクセス。
- (11)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2019年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約7%減の約1155億円。」  
(<http://www.kinenbilabo.jp/?p=779>) 2020年8月20日アクセス。
- (12)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2020年の「ハロウィン」の推計市場規模は、新型コロナウイルスの影響で推計不能と判断しました。」  
(<https://www.kinenbi.gr.jp/mypage/3311>) 11月13日アクセス。
- (13)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2021年の「バレンタインデー」の推計市場規模は前年比約20%減の約1050億円。」  
(<https://www.kinenbi.gr.jp/mypage/3522>) 2023年11月13日アクセス。
- (14)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2015年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約11%増の1220億円。」  
(<https://www.kinenbilabo.jp/?p=406>) 2023年11月13日アクセス。
- (15) ENGLISH LIVE「アメリカの祝日：THANKSGIVING（感謝祭）とブラックフライデー」  
(<https://englishlive.ef.com/ja-jp/blog/english-in-the-real-world/what-is-thanksgiving-day/>) 2023年11月28日アクセス。
- (16) Ditto.
- (17) 株式会社マーチャンダイジング・オン『2019年ハロウィン向けお菓子市場の動向』  
(<https://www.mdingon.com/2019/10/25/vol189%E3%80%8E2019%E5%B9%B4%E3%83%8F%E3%83%AD%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%B3%E5%90%91%E3%81%91%E3%81%8A%E8%8F%93%E5%AD%90%E5%B8%82%E5%A0%B4%E3%81%AE%E5%8B%95%E5%90%91%E3%80%8F/>) 2020年9月24日アクセス。
- (18) 日本記念日協会が「2019年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約7%減の約1155億円」 (<https://www.kinenbilabo.jp/?p=779>) 2023年12月3日アクセス。
- (19)株式会社インテージ「インテージ、「コロナ禍で過ごすクリスマス」意識と行動を調査 2021年のクリスマス関連の市場規模は2兆800億円を予測（前年比128%）」

- ([https://www.intage.co.jp/news\\_events/news/2021/20211213.html](https://www.intage.co.jp/news_events/news/2021/20211213.html)) 2023年12月3日アクセス。
- (20) Book Market「クリスマスプレゼントの時期に知りたい、クリスマスとSDGsの意外な関係性?」(<https://www.backmarket.co.jp/ja-jp/c/christmas/christmas-holiday-shopping>) 2023年12月3日アクセス。
- (21) 「【注意】渋谷はハロウィーン会場ではありません」巨大看板が話題に 区の本気すぎる対応、背景に「例年以上のリスク」(<https://news.yahoo.co.jp/articles/39ac9c9858d60dd065c7037d4468d666b489b18c/images/000>) 2023年11月15日アクセス。
- (22) 「五輪招致成功の要因は何だったのか? 東京圧勝の舞台裏」(2013年09月09日14:55公開)  
([https://sportiva.shueisha.co.jp/clm/othersports/other/2013/09/09/post\\_252/](https://sportiva.shueisha.co.jp/clm/othersports/other/2013/09/09/post_252/))  
2023年11月21日アクセス。
- (23) 「区長の部屋」(<https://www.city.shibuya.tokyo.jp/contents/kutyo/>) 2023年11月21日アクセス。
- (24) 渋谷駅東口商店会「渋谷ハロウィン仮装コンテスト」(<https://shibuya-halloween.com/>) 2023年12月3日アクセス。
- (25) 筆者はコスプレと仮装を異なったものとして捉えている。「ハロウィンとコスプレ」(『むらおさ』第32号、2020年7月、8-17頁)を参照。

## 引証資料

- 石井研士 (2017). 『渋谷学』、弘文堂。
- 菊地悠人 (2016). 「ハロウィーン市場膨張 アンチを味方にできるか」、『週刊東洋経済』、第6693号、11月12日号、東洋経済新報。
- 佐々木隆 a (2000). 『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 追加増補版』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室。
- 佐々木隆 b (2021). 『「ハロウィーン」とは何か』、後編、武蔵野学院大学佐々木隆研究室。
- 関口英里 (2004). 『現代日本の消費空間 文化の仕掛けを読み解く』、世界思想社。
- 高久舞 (2013). 「渋谷の《祝祭》—スクランブル交差点につどう人々—」、石井研士・國學院大學研究開発推進センター渋谷学研究会編、『渋谷の神々』、雄山閣。
- 春香クリスティーン (2016). 「渋谷スクランブル交差点の秘密」、『正論』、通巻535号、産経新聞社。
- 穂積由 (2019). 「はじめに」、松井剛編、『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか?』、星海社。
- レジー (2017). 『夏フェス革命 音楽が変わる、社会が変わる』、blueprint。

室作幸江 (2016). 「ハロウィン市場のさらなる活性化のカギは『家族』『具体的な鼓動』『スーパー』、『DIAMOND Chain Store』、第 47 巻第 16 号、ダイヤモンド・リテイルメディア。

山内輔 (2019). 「薄まる集団—再び、渋谷ハロウィン」、松井剛編、『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか?』、星海社。

※新聞記事について各新聞の縮刷版を使用した。また、オンライン上の朝日新聞クロスサーチ、読売新聞ヨミダスも併せて利用した。

※“Halloween”の日本語表記では「ハロウィーン」と「ハロウィン」が混在している。本稿では「ハロウィーン」を主として使用しているが、資料で「ハロウィン」となっている場合にはそのまま引用している。また、引用中のものも漢数字を算用数字で表記した。ただし、元号表記はそのままとした。



執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学大学院・武蔵野学院大学教授

ポップカルチャー・若者文化研究 第12号

2024年4月28日 発行日

ポップカルチャー・若者文化研究会 編集・発行

〒350 - 1328

埼玉県狭山市広瀬台 3-26-1

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室内

ポップカルチャー・若者文化研究会事務局

問い合わせ先 : takashi.sasaki@u.musa.ac.jp

